

# 医家芸術 冬季号 目次

60巻 通巻626号 (2016年度)

## 年頭所感

日本医師会会長	横倉 義武	2
日本薬剤師会会長	山本 信夫	4
東京都医師会会長	尾崎 治夫	6

第45回医家写真展	8
第54回ドクターズファミリーコンサート	22
第60回邦楽祭	25
◆悼辞・高橋妙子先生を偲んで……太田 恵	33

## ◇医家隨想

臓器提供者	
豊泉 清	35
葉山の友人	
穂苅 正臣	40
チエーホフを読む(9)	
藤倉 一郎	41
『ほんにょう=棒掛け』	
一水沢の秋の風物詩	
浜名 新	44
龍の背の理想郷	
出来 尚史	49
小平市医師会研修旅行	
白矢 勝一	56
主治医への遺言	
斎藤 三朗	62
第13回サイパン戦跡巡り	
美濃部 幸恵	
美濃部 欣平	69
猿年の徒然の記	
秋元 光博	78

謹賀新年 御挨拶	83
----------	----

医芸俳壇	86
医芸柳壇	87
医芸歌壇	88
詩	89

## ◇アンコール掲載

『メキシコ・オリンピック旅行記』④	
日本医家芸術クラブ 編	91

忘れ得ぬ人々	
金成 桂一	93

思い出のメキシコ	
塙 やす子	105

## ◇個展を開催

白矢 勝一	110
透視像	114
編集後記	114

表紙の言葉	7
-------	---

原稿募集のお知らせ	90
-----------	----

# 年頭所感 2016年（平成28年）

日本医師会

会長

横倉 義武



明けましておめでとうございます。  
国民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は医療界においてさまざまな動きがありました。まず、団塊の世代が75歳以上となる二〇二五年に向けて、国民が将来にわたって必要とする医療・介護を過不足なく受けられる社会を構築するため、各地域で地域医療構想の策定に向けた具体的な取り組みが始まりました。

日本医師会といたしましても、行政と協力して「かかりつけ医」を中心とした多職種連携による、各地域に即した「まちづくり」を推進してきたところですが、地域とのつながりが薄れ、高齢者の孤独死が社会問題となつて、いる昨今、地域に根ざした「かかりつけ医」の存在が、高齢者の尊厳を保ち、住み慣れた地域でいつまでも健康に過ごせる社会を実現するカギであると確信しております。これを土台として、生活習慣の改善対策や各種健診などの生涯保健事業を体系化し、健康寿命の延伸を目指して、時代に即した改革を進めていかなくてはならないと考えております。

また、塩崎恭久厚生労働大臣の私的諮問機関である『保健医療二〇三五』策定懇談会から、将来を見据えた保健医療政策のビジョンとその道筋を示すための提言が発表されました。メンバーの平均年齢が40代という若い方が医療と介護の本質を踏まえながらも将来を見据え、健康増進や地域づくり、更には保健医

りました。昨年7月に発足した「日本健康会議」もその一つです。経済団体、保険者、自治体、医療関係団体などのリーダーが集まり、健康寿命の延伸とともに今後の高齢化に比例して増加する医療費の適正化を図ることを目指すものであり、先進的な予防・健康づくりを全国に広げるために組織されたオールジャパンによる取り組みであります。

療システムの持続と国際的な貢献など、多岐にわたる意見を述べております。私も、アドバイザーとして参加いたしましたが、すべてが実現できるわけではないとしても、既存の枠にとらわれない柔軟な発想のまぶしさと貴さを実感いたしました。

昨年9月には、アジア大洋州医師会連合（CMAAO）ミャンマー総会に出席いたしました。各参加国においては、それぞれが独自の歴史的な背景を有しております。カンボジアでは大量の虐殺が行われ、ベトナムではアメリカと長期間にわたって戦争が繰りひろげられた歴史があります。一方、ミャンマーでは社会主義の独裁政権から、現在、民主国家に変わろうとしています。こうした国々の方々が、口を揃えて述べておられます。「保険制度がないので、病気の時に医療にかかるのがとても不安である」と。私は会議を通じ、

彼らは総じて勤勉であることから、医療体制が整い、国が安定さえすれば、経済発展を実現できると確信するに同時に、わが国の国民皆保険の素晴らしさを再認識いたしました。

また、ミャンマー政府とミャンマー医師会との懇談の場においては医療体制に関する相談を受け、日本医師会として今後、ミャンマーにおける国民皆保険の導入や医療人材の能力開発に協力していくと申し上げたところであります。

世界に誇るべきわが国の国民皆保険は、戦後、まだ発展途上であつた一九六一年、生活のインフラ整備のための相互扶助による保険制度として確立されたものであります。決断を駆せると、その先見の明に頭が下がる思いです。当時の人口は約九千五百万人。以後、高度成長も相まつ

て増え続けることになります。すなはち、それ以降の医療政策については、人口増加と経済成長の時代を背景として議論が展開されてきたわけであります。

わが国の人口は一〇〇八年前後の約一億二千八百万人をピークに減少に転じており、二〇五〇年頃には一九六一年当時の水準にまで減少するとも言われております。世界中のどの国にも先立ち、少子高齢化に伴う人口減少社会を見据えた医療政策は避けられず、過去の経験にばかり頼つてはいられません。何よりも、その時代を生きしていくのは、紛れもなく私どもの子や孫の世代です。これらの世代に負の遺産を背負わせないためにも、われわれの世代で道筋を立てておかなければなりません。

昨年10月、前年に引き続きわが国にノーベル賞受賞者が誕生いたしました。特にノーベル生理学・医学賞

の受賞は、利根川進教授、山中伸弥教授に続く3人目の快挙であります。近年、世界を震撼させたエボラ出血熱の感染拡大や韓国で蔓延したMERSなど「感染症に国境はない」と言われている中で、「グローバルヘルス」と呼ばれる全世界的な保健医療に関する課題解決が大きく注目されております。今回の大村智教授の受賞は、「超高齢社会における医療」という未知の領域を切り開き、それを世界に発信していくなければならぬいわが国に対する最上のエールに思えてなりません。

## 日本薬剤師会

会長  
山本 信夫



われわれ世代に課せられた責務です。日本医師会は「国民と共に歩む専門家集団」として、世界に冠たるわが国の国民皆保険を堅持し、国民の視点に立った多角的な活動によつて、真に国民に求められる医療提供体制の実現に向けて、本年も執行部一丸となつて対応して参る所存です。

国民の皆様方の深いご理解と格段のご支援を賜りますようお願い申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

人口減少と高齢化の一層の進展が見込まれる中、持続可能な社会保障制度の実現と、次世代への責任という視点に立つた改革に向けた取組が本格化しています。超高齢社会については不可欠な医療・介護・予防・住まい・生活支援を、一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組が始まっています。

昨年は、6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針」(一〇一)で発表されました。そのベースにある国民皆保険という貴重な財産を、地域医療提供体制を維持する基本的な仕組みとして守り抜き、次の世代に引き継いでいくことこそ、

新年あけましておめでとうござい

五）（骨太の方針）において、薬剤師による効果的な投薬・残薬管理や医師との連携によるかかりつけ薬局の推進と、診療報酬における調剤業務の妥当性と保険薬局の貢献度による評価や適正化の方向性が明確にされました。一方、薬剤師と薬局について、そのあり方に変革を求める方針が相次いで示されました。9月には、かかりつけ薬剤師が常駐する薬局を基本とし、医薬品等の安全・適正な使用に関する助言と、専門職種や関係機関と連携した地域住民による主体的な健康の維持・増進を支援する機能を併せ持つ薬局を「健康サポート薬局」と位置付け、そのあり方が厚生労働省の検討会より公表され、10月には、「患者のための薬局ビジョン」が厚生労働省より公表されました。健康サポート薬局がかかりつけ薬局の基本的機能を備えている必要があることを踏まえ、薬局ビジョ

ンには、薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するための薬剤師と薬局の姿とともに、「門前からかかりつけ、そして地域へ」と医薬分業の目指すべき方向性がわかり易く示されています。さらに、厚生労働省は、ビジョンの実現に向けて、24時間対応や在宅対応等における地域の薬局間での連携体制構築のための取組や、健康サポート機能の更なる強化に向けた地域の先進的な取組など、薬局のかかりつけ機能の強化のためのモデル事業に関する予算を要求しています。

本年4月に予定されている診療報酬・調剤報酬の改定の方向性も、国 の進める施策を反映したものになることが想定されます。高齢化が急速に進む中、住民・患者から信頼されました。健康サポート薬局がかかりつけ薬局の基本的機能を備えている必要があることを踏まえ、薬局ビジョ

ンには、薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するための薬剤師と薬局の姿とともに、「門前からかかりつけ、そして地域へ」と医薬分業の目指すべき方向性がわかり易く示されています。さらに、厚生労働省は、ことは極めて重要であり、私たち薬剤師の大切な使命であると確信しています。社会保障制度改革への取り組みが本格化する中、薬剤師を取り巻く環境も大きく変化しています。かかりつけ薬剤師・薬局として、患者が使用する医薬品の一元的・継続的な薬学管理指導を担い、薬と健康等に関する多様な相談に対応するとともに、地域に必要な医薬品等の供給体制を確保し、国民にとつて必要な存在となるよう、薬剤師の原点に立ち戻り力を尽くしていく所存であります。

本年は申年です。「申」は物事が進歩発展し、成熟に至るまでの伸び

をあらわすとされています。

本年が、皆様方にとって希望に満ちた進歩発展の年になりますことをお祈り申し上げますとともに、本会事業にこれからも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 東京都医師会

会長

尾崎 治夫



日頃は、東京都医師会の会務運営

並びに諸事業にわたり、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も公益社団法人としての使命を果たすべく着実に活動をしてまいりますので、引き続きご支援、協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

東京都医師会は、来年3月に現在建築中の新会館がいよいよ竣工いたします。工期も順調に進んでおり、既に8階まで建物の骨格は整い、全体像が見えてきております。新会館は防災機能を強化し、数百人規模の帰宅困難者の収容も可能となり、また、救急蘇生や介護手技の習得に役立つ機器をそろえたシミュレーションセンターも完備しております。近くにお立ち寄りの際は、ぜひ現場をご覧になつていただければと思います。

明けましておめでとうございます。日本医家芸術クラブの皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、2025年に向けて、医療も大きく変わらうとしております。最終的にどのような形になるのか、今のところ見当もつかないのが正直なところであります。

私ども東京都医師会では、今期三つの医療政策を掲げ、役員一同、政策実現に向けて活動をしております。医療政策の1つ目は、「2025年に向けた東京にふさわしい『地域医療提供体制』と『地域包括ケア』の構築」、2つ目は、「変容を迫られる医師をしっかりとサポートできる東京都医師会」、3つ目が、「超高齢化社会を見据えた都民の予防医療への積極的施策」であります。

特に、一つ目の地域医療提供体制や地域包括ケアの構築には、現時点における地域での病病、病診連携システム構築の進捗状況や、地区医師会と行政との日頃の良好な関係、多職種の方との連携への取り組みが上

手く進んでいることが前提になつてまいります。

昨年、ノーベル医学・生理学賞を受賞された 大村 智 北里大学特別栄誉教授のように、あきらめるところなく、一つ一つコツコツと地道に物事を積み上げ、最終的に大きな仕事を成就していく姿勢を学びながら、東京都にふさわしい医療提供体制並びに地域包括ケアの構築に尽力してまいりますので、日本医家芸術クラブの先生方におかれましてもご支援ご協力の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

結びとりますが、日本医家芸術クラブの限りないご発展と各位のご清祥を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

表紙の言葉

茨城県つくば市 榎本 貴夫

赤富士

古代人にとって天上と、この世を結ぶバイパスは天高くそびえ立つ山であつたことは想像に難くない。そのような中で狩猟採取を生業とした縄文人にとって山そのものが単なる通路ではなく「依り代」として神格化していったに違いないのである。霊峰富士はその最もたるものであろう。コノハナサクヤヒメを祭つてはいるが御山そのものが男富士か女富士か、やさしい問題ではない。そこで古くから幾多の画家がその正体を暴く挑戦をしてきたのである。この度、私も箱根に隠れ潜み朝日が昇る刹那を待つて、ドンキホーテを気取りこの怪物に挑ん

でみたのである。

(第六十二回 医家美術展出展作品)

## 第45回 医家写真展

平成27年10月14日(水)～198日(日)  
JCII フォトサロンにて

昨年に引き続き、  
今年も千代田区に  
あるJCIIフォ  
トサロンにて、十  
月十四日から十八  
日に第四十五回医  
家写真展が開催さ  
れました。

二十一名の会員  
により四十二作品  
が展出され、今回  
も力作揃いの写真  
展となりました。  
最終日に行われ  
た懇親会では、写真家  
の先生に参加  
していただき、アドバイスなどをい  
ただきました。

ここに「出展作品を」紹介いたしま  
す。写真は当クラブホームページで  
も閲覧できますので、どうぞご利用  
ください。日本医家芸術クラブホー  
ムページへは『医家芸術 写真部』



バレリーナ?バレリーノでしょ!  
メルボルンにて



◆石井 光子

『バレリーナ?バレリーノでしょ!  
メルボルンにて』

【<http://www.ika-geijyutsu.jp/html/shashin.htm>】

にて検索して「ただぐと」覗いただ  
けます。または左記のURLへアク  
セスしてください。

評:【入賞】青空下での大道芸人を手  
前いっぱいに入れて、左端に街の通  
行人を入れたことで雰囲気が出まし  
た。



新宿副都心

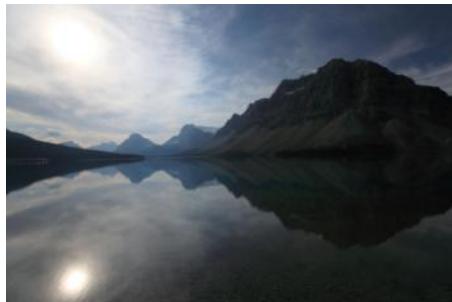
◆ 岩瀬 光

『ボウ湖と太陽

——カナダロッキ——

『朝のモレーン湖

——カナダロッキ——



ボウ湖と太陽

——カナダロッキ——

評.. 湖面がおだやかなのでとてもきれいに風景が映し出され、また太陽と山の位置が絶妙です。

◆ 大武 秋笙

『緑陰』

『紅（くれない）匂う』

評.. 湖の青、山にかかる雪の白、と自然の色に目を奪われます。手前には木々が見えているのも画面を引き締めていて素敵です。



朝のモレーン湖

——カナダロッキ——



緑陰

評.. 太陽を背に逆光でとらえた紅いショールの質感がよく出ていています。



紅（くれない）匂う



斜光—美人林

◆大森 佐一郎  
『斜光—美人林』  
『雪囲い—神宮寺』

評..鮮やかな緑の葉が目を射し、萌える春の雑木林を見たくなります。露出もピタリでした。

評..晚秋でしようか。裸木を画面の1／3程度遠くに入れ、下方に枯れ葉をローアングルでいっぱいに入れただことで、冬の存在感が強調されました。



雪囲い—神宮寺

評..晚秋でしようか。裸木を画面の1／3程度遠くに入れ、下方に枯れ葉をローアングルでいっぱいに入れただことで、冬の存在感が強調されました。

評..白黒に変換したことでの寒さが出ました。雪粒も写っています。



クスコ巨石の中で

◆木村 典子  
『クスコ巨石の中で』  
『マチュピチュ段々畑』

◆ 薙藤 三朗

『泰山木が咲いた』  
『ち一ちゃんもサイン』



マチュピチュ段々畑



泰山木が咲いた

評：【入賞】奥の山肌をいれたことで  
とても標高の高いところだと伺い知  
れます。濃さの違う緑がいくつか画  
面に入っている所も素敵です。



ち一ちゃんもサイン

評：【入賞】奥の山肌をいれたことで  
とても標高の高いところだと伺い知  
れます。濃さの違う緑がいくつか画  
面に入っている所も素敵です。

評：文句なしの笑顔。細目にもしつ  
かりアイキヤツチが入っています。

◆佐々木 正

『世界最大の瀑布—悪魔の喉笛—』

『遺跡に集う』



世界最大の瀑布—悪魔の喉笛—

評・【銀賞】画面の80%以上を瀑布の形相を入れたのが迫力の写真になりました。光る水面と遠くの景色の静けさが、滝口の落水の動きを強調させています。

評・マチュピチュの正面から撮ったものです。時間帯が良くて、光廻りがとてもよく、草の緑が鮮やかに出ています。手前の段々にできた陰もアクセントになつていて、中央の高い山が後の山脈を突き出しているのがいいです。右端の小さく写っている3人の人物が、この山頂のスケールを出していて成功しています。



遺跡に集う

◆白矢 勝一

『軽蔑』  
『追憶』



軽蔑

評・シルエットの男女、黄昏の河辺、そっぽを向いた二人の距離、ケイタイで話し中の女性の髪が夕日に光っている様、それらに男女の心理状態が映つていて感じがします。

◆白矢 泰三  
『水辺のほとり』  
『染まる河辺』

評：【銀賞】昏れて街の灯りが灯る頃、追憶にふける後ろ姿の男女。白矢勝一氏の作品には、いつも人間ドラマが映つているような気がします。



追憶



染まる河辺

評：一幅の名画を思わせます。形の良い大きな樹、水辺に浮かぶ小舟、見事な構図です。



水辺のほとり

評：ブルーカラーで味のある作品に仕上がりました。街の幻想的な雰囲気がでている作品です。お店の照明



黄昏

◆白矢 智靖  
『黄昏』  
『寒朝』

評：昏れ色で赤く染まる大きな橋、沿岸の家並み、水に浮かぶ泥舟数隻。このまま絵に描きたくなりますね。文句なしの構図です。

のオレンジがアクセントになつていて作品を引き締めています。



寒朝

◆白矢 輝靖

『星降る街』  
『静かな夜』



星降る街

評.. フードをかぶった男の子と黒い上着の襟を立てて歩くお父さん。寒さが伝わってきます。画面の左の樹右の街灯、後のアパートメント、パリの雰囲気を伝えています。スマップ写真はシャッターチャンスが大切ですね。



静かな夜

評.. タングステンカラーで温もりは感じますが、静けさにはブルーカラーがよかつたです。デジタルカメラでは夜景は案外易しく撮ることができますが、出来上がりの意図を考えて、色温度（カラーバランス）が重要です。そして、シャッターが遅くなるので、三脚かISO感度を上げることをおすすめします。

◆関口 直男

『初秋の雲』

『ガーベラの輝き』



ガーベラの輝き



初秋の雲

評..花の色のバランスは絶妙ですが、正面からストロボ一灯の光なので、花のディテイールが少し乏しい感じがします。

◆鷹橋 靖幸

『雨中花』

『可憐』



雨中花

評..左右の緑に挟まれた雨に咲く紫陽花。花びらの雨滴にピントをよく

合わせて質感がよくでています。



可憐

評..花を画面の下方に小さく入れたのが良かつたです。大きいほうの花のピントが甘かつたのが残念です。



◆竹腰 昌明

『夕映えのカセドラー・ロック

(セドナ)』

『絆 (カリブ)』



夕映えのカセドラー・ロック  
(セドナ)

評..絶好のチャンスがモノにできました。岩の並び、火砲の陰の入れ方の量、染まる岩たち。質感がよく出ています。巡りあいたい風景です。

評..【銅賞】灼熱のカリブの海辺。しつかりとママの手に握られた女の子の笑顔がいいです。夏のスナップ写真の逸品です。



絆 (カリブ)

◆逸見 和雄

『千本桜』

『児玉千本桜』



千本桜

評..日本人なら誰でも撮りたくなる桜。しかも並木になつているとそれだけでワクワクしてきます。邪魔なものがなく、画面にまとまりがありです。空の割合もいいです。

評.. 桜の紅、空の青、雲の白、草木の緑と自然の色のバランスが素敵です。雲の明るい部分に目が行きがちなので空の割合をもう少し少なくしてもよかつたかもしれません。



児玉千本桜

評.. 富士の傘雲の写真は多く見られます。富士にかかった傘雲の色と形、左の上にある動きのある雲、そして富士の左の麓にある黄色い雲といい、湖の輝きもあり、見せ場が少し多すぎるのが気になります。思いきって傘雲に絞ってアップで撮つてみてもよかつたかもしれません。



傘雲 (富士河口湖町)

評.. 紺碧の海、真っ白い波、本当にデジタルカラー写真に仕上がりました。青い空と碧い海、白いコスチュームのサーファーと白い波がこの作品のすべてです。上部の船をなくして、中央のサーファーに目が行くような構図にしても面白かったかもしれません。



サーフィン (ワイキキビーチ)

◆本村 美雄  
『傘雲 (富士河口湖町)』  
『サーフィン (ワイキキビーチ)』

◆ 本村 香都子

『アルビー（南仏）の橋』  
『ワイキキの屋下がり』



アルビー（南仏）の橋

評・【入賞】重厚な歴史的な橋が前と後ろに、その向こうに建物があり、遠近感の表現が素敵です。何よりもこの写真の良いところは、水辺の漣みが美しいことです。

評・夏の海辺ではよく見られるサンタップですが、デジタル色の強いコントラストの海とよく焼けた肌の女性が素敵です。左のパラソルの紐が風に揺れている様に海風が映し出されています。



ワイキキの屋下がり

評・空を80%入れて秋の空を表現した作品です。美瑛の丘の青い屋根の家をポイントに北の大地を気持ちのいい写真に仕上げています。



秋空と実る大地

◆ 松本 俊一

『秋空と実る大地』  
『白鬚の滝と青い川』

◆村上 泰  
『白花ぼけ』  
『アマリリス』

評.. まず露出がどんびしやです。ただ、被写体が少し小さく写っているので、迫力が乏しいのが残念です。倍の画角のレンズで大きく引っ張つて写したら迫力のある写真が撮れたと思います。



白鬚の滝と青い川



アマリリス



【銅賞】白花ぼけ



華光院の火渡り

◆矢崎 定造  
『華光院の火渡り』  
『神興の川渡り』

評.. 構図とピントはどちらも申し分ありません。三脚使用かと思われるほど、色調・ピントが美しく決まっています。

評：燃え盛る炎と杓と桶を持つ若僧。合掌する老僧と見物人がやや説明的ではありますが、報道写真のよう的に表現されている作品です。



神輿の川渡り

評：傾いて今にも倒れそうな神輿を捉えたタイミングの良い作品です。そして、前で担ぐ三人の表情、さらに後方の倒れそうな神輿の下で必死の表情の男性が緊張感を引き立たせていています。

◆山本 健一  
『ドレスデンの朝』  
『エルベの流れ』



ドレスデンの朝

評：朝日をうけて流れるエルベ川のほとり、旧い都市の建物が並んでいて美しいです。淡く染まつた千切れ雲が浮かぶ空。この見ごたえある風景をパノラマ風に撮って成功しています。構図・ピント・露出全て申しきりません。自転車の人物は、も

う少し待って入れない方がよかつたかもしれません。



エルベの流れ

評：【金賞】流れるエルベ川。悠久の刻を流れた川と老人たちが平和なひとときを過ごしている素敵な作品です。青い空に白い雲、岩山を指して何を語らっているのか、遠い月日を思わせる何とも長閑な素敵な写真にまとめました。傑作です。

## 第45回 医家写真展 作品目録

(2015年10月14日～18日)

氏名	作品Ⅰ	作品Ⅱ
石井 光子	バレリーナ？バレリーノでしょ！ メルボルンにて	新宿副都心
岩瀬 光	ボウ湖と太陽 —カナダロッキー—	朝のモレーン湖 —カナダロッキー—
大武 秋笙	紅(くれない)匂う	緑陰
大森佐一郎	斜光—美人林	雪囲い—神宮寺
木村 典子	クスコ巨石の中で	マチュピチュ段々畑
斉藤 三朗	泰山木が咲いた	ちーちゃんもサイン
佐々木 正	世界最大の瀑布 —悪魔の喉笛—	遺跡に集う
白矢 勝一	軽蔑	追憶
白矢 泰三	水辺のほとり	染まる河辺
白矢 智靖	黄昏	寒朝
白矢 輝靖	星降る街	静かな夜
関口 直男	初秋の雲	ガーベラの輝き
鷹橋 靖幸	雨中花	可憐
竹腰 昌明	夕映えのカセドラル・ロック (セドナ)	絆(カリブ)
逸見 和雄	千本桜	児玉千本桜
本村 美雄	傘雲(富士河口湖町)	サーフィン(ワイキキビーチ)
本村香都子	アルビー(南仏)の橋	ワイキキの屋下がり
松本 俊一	秋空と実る大地	白髭の滝と青い川
村上 泰	白花ぼけ	アマリリス
矢崎 定造	華光院の火渡り	神興の川渡り
山本 健一	ドレスデンの朝	エルベの流れ

# 第54回ドクターズファミリーコンサート

## 2015年11月8日(日)シラヤアートスペースにて開催

医家芸術 ドクターズ・ファミリーコンサート 2015年11月8日



開会の挨拶 松木 耀子

- 1 女声コーラス ピアノ 刑部 美也子  
 小川 昭子 (柏江市・小児科) 広瀬 珠恵 松木 耀子 (小平・眼科) 和田 幸代  
 1 眠りの妖精 作詞 堀内敬三 ドイツ民謡  
 2 浜千鳥 作詞 鹿島 鳴秋作曲 弘田 龍太郎

- 2 ハープデュオ 大野 ますみ (千葉・皮膚科) 共演: 細沼 秀行  
 1 魔法の鈴 「オペラ魔笛」より W.A.Mozart  
 2 アヴェ・マリア J.S.Pach J.F.Gounch



- 3 ピアノ独奏 武井 智昭 (横浜・耳鼻科)  
 1 游のアデリース Paul de Senneville  
 2 Summer 久石 謙



- 4 ピアノ独奏 清水 裕子 (武藏境・眼科)  
 1 ボロネーズ軍隊 ショパン



- 5 独唱 (ソプラノ) 松木 耀子 (小平・眼科)  
 1 恋はやさし 野辺の花よ Franz von suppe  
 2 オーソレミオ (私の太陽)

休憩10分

- 6 ギターの弾き語り 白矢 勝一 (小平・眼科)  
 1 愛さずにはいられない 2 知りたくないの

- 7 JAZ 演奏 クラリネット飯塚 崇志 (横浜・皮膚科) ピアノ萩野 仁志 (町田市・耳鼻科)  
 ベース佐々木 建志 (町田市・乳腺外科) ドラム 有吉 拓  
 1 Cherokee(チェロキー) 2 Round mid night



- 8 独唱 (テノール) ロベルト ディカンディオ  
 1 星は光らぬオペラ「トスカ」より作曲: ブッチーニ  
 2 Be my love 作曲: ニコラス プロドツキー

- 9 オーケストラ 飯塚 崇志 指揮: 近藤 敦子  
 1 モーツアルトの交響曲40番第一、三楽  
 閉会の挨拶 萩野 仁志



休憩15分

懇親会

- 10 独唱 (ソプラノ) 安孫子 みどり  
 1 Melodia sentimental 作曲 H.Villa

- 11 バンド 白矢 勝一 中野 小平・産婦人科) 井上 齊 (小平・耳鼻科)  
 1 ザブルーハーツメドレー



- 12 JAZ 演奏 はぐどばん

- 13 (テノール) ロベルト ディカンディオ

昨年11月8日に行われた洋楽部

主催のドクターズファミリー・コンサートが、東京都小平市にある白矢眼科医院併設のシラヤアートスベースにて開催されました。

お馴染みの先生方に加え、今回初参加の方やオーケストラも参加し、盛大なコンサートになりました。

洋楽部部長の松木眼科の松木耀子先生を始め、女声コーラスのみなさん、クラリネットの飯塚先生、バンド「はくどうばん」やテノール歌手のロベルト・ディ・カンド・ディードさん、白矢勝一先生のギター弾き語りなど、常連のメンバーがコンサートを盛り上げる中、初登場の大野ますみ先生はハープを披露して下さり、武井先生、清水先生はピアノ演奏、そして今回は何よりドクターズファミリー・コンサートにオーケストラが復活いたしました。限られたスペースの中でしたが、とても迫力のある演奏で会場

を魅了していました。

コンサートの第一部終了後は、軽食や飲み物も提供され、終始和やかなムードで、ご参加された方も楽し

そうでした。

第二部ではソプラノ独唱あり、ジヤズ演奏ありとバラエティ豊かなプログラムに加え、白矢勝一先生率いるバンドが初参加して下さいました。

メンバーは同じ小平市の先生方と、いつもファミリー・コンサートの司会でお世話になつている玉澤明人さんです。ロックバンドのザ・ブルーハーツの曲をメドレーで披露しました。会場と一体になり賑やかで楽しいひとときでした。

来年もドクターズファミリー・コンサートを開催する予定です。一ヶ月後にはヤマハホールで開催したいと考えています。次回の出演者大募集です。観覧のみも大歓迎です。是非足をお運びください。日程など決

まりましたら、日本医家芸術クラブの機関誌『医家芸術』やホームページなどでも報告いたします。

一部ですが、写真を掲載しました。楽しい雰囲気が伝わればと思います。皆様のご参加お待ちしております。





## 第六十回 邦楽祭

邦楽評論家 宮西 芳緒

日本医家芸術クラブ 邦楽部 『邦楽祭』の記念すべき第六十回公演が平成二十七年十一月二十九日（日曜日）、

例年通り日本橋三越劇場で開催された。

当日、会場で配られた資料には、「日本医家芸術クラブ 邦楽祭（開始時は洋楽と合同で芸術文化祭と呼んでいた様です）は、今から六十年前の昭和二十九年に始められたそ

りません。」とあり、最初の記録となる「第三回日本医家芸術文化祭」（昭和三十一年十一月二十一日、日本相互ホール）の関係者や出演者の方々の様々な思いが記された往時の誌面のコピーを興味深く読ませていただいた。

さて、この日は今までにも増して熱の籠もつた舞台の数々が繰り広げられた。今回の内容は、小唄、新内小唄、舞踊、端唄、連吟、長唄、さのさ、清元の全十二番が披露された。

委員長・太田怜先生。



「開会の辞」 日本医家芸術クラブ

と芸術の相互関係を熱く語られた。

## 一、小唄『勢い肌』『屋台酒』



邦樂祭初参加で、「前回の赤坂での初デビューに続き、今回が二度目の舞台となりますが」、「二度目の舞台となります」とい

## 二、子氣質と、へどがいいのか

い気が合つて」へ愉快に飲んで肩をたたいて右左さよなら」というへ男同士の屋台酒」の一題。その人柄が偲ばれるような唄い口。伊達や粋、男の美学を、これからも唄い続けていただきたい。

／川口市）  
先生（外科

う村中定幸

が、井上恵  
美竜師の三  
味線に乗つ  
て開幕を飾  
る。

## 二、新内小唄二曲『明がらす』『夢 の柳橋』

佐々英一先生（ふじ松鶴弥）こと。  
内科／世田谷区）の唄。糸はふじ松  
加奈子師ほか。



小唄バ  
ジョン『明  
がらす』と、  
「柳橋界  
隈の風情  
をさらり  
と表現し  
た中にも」

『明鳥夢  
泡雪』のさ  
わりの部  
分』を「た

つぶり唄つています」という『夢の  
柳橋』の一題。新内の纏綿とした情  
緒が、そつと、優しい声で客席の隅々

へ勢い肌だよ 神田で育ちや」へ  
伊達も喧嘩も江戸の花」と唄う江戸

（帰咲名残命毛）や『蘭蝶（若木仇  
名草）』と並ぶ新内の名曲『明鳥夢泡

雪』の新内

にまで届けられる。

### 三、舞踊・清元『北州』

「前割のかつらに立役の素踊りの

衣裳は初めての経験なので、とても

嬉しく思つております」という大川

尚美先生（尾上菊尚こと。小児科／

横浜市）は、「祝儀の名曲で難曲の

本人は「少し背伸びをして」と謙遜  
されているが）、初々しい中に「松の  
位」の風格も見せ、実に丁寧な舞台  
を務められた。

「小児科医の仕事と、芸事のお稽  
古と、それにそれらが終わつた後た  
しなむ一杯は、私の人生の大きな三  
本柱です」とおっしゃる充実した人  
生が羨ましい。

### 四、小唄『鶴次郎』『せかれせかれ て』

山崎薰先生（春日豊・岳薰裕こと）。

小児科／台東区）の唄。三味線は春

日や・上井裕師ほか。

「二十数年前にお稽古しておりま



お稽古で、  
ご披露する  
次第です」

とおっしゃる山崎先生だが、たとえ  
二十数年前にしても、稽古を重ねら  
れた小唄の発声は衰えを知らないよ

した小唄を、  
この度、二  
十年振りに」  
「家内より

急遽、むり

やりに（笑）、

出演するよ

うに言われ

たため、た

つた四回の

うだ。これを機に、ぜひとも医家芸術祭のご常連となつていただきたい。

五、端唄『河水』『盆の流し唄』『二  
下りそわぎ』



／台東区）の  
う高橋杏子先  
生（新水豊伎  
こと。精神科

「た」清々しい『河水』徳島市の「盆の流し」を唄つた哀愁を含んだ『盆の流し唄』に続いて、「吉原で唄われたお座敷唄」の『三下りさわぎ』では「めでためでたの若松様よ」と「誠に僭越ではありますが、邦楽祭のさらなる」発展を祈願して賑やかに「めたいと思います」という趣向。

## 『奪物語』の一飯をモチーフとする曲

六連吟(喜多流)『井筒』  
平野宏先生(外科/練馬区)ほか。  
「有常の娘が、業平の形見の衣裳  
ありつけ

（台東区）の  
唄。三味線は  
新水千豊師ほ  
か。  
「隅田川の  
夏の風情を唄

「有常の娘が、業平の形見の衣裳を纏つて現われ、舞を舞い、井戸の水鏡に我が身を映して業平を偲び、



深みが響いた。

## 七、舞踊・義太夫『鷺娘』

今回が二回目の出演で「現在、私は



は大学院生活も四年目で、卒業まで残り四ヶ月となり、慌ただしい毎日を過ぎて」しています」という小島杏里先生(尾上杏里)と。歯科／新潟市)は、歌舞伎の興行や日本舞踊の会な

どでよく上演される長唄の方ではなく、義太夫『花競四季寿』の中の冬の曲の『鷺娘』を踊る。

鮮やかに引き抜いて一本傘の扱いも初々しく、可憐な娘の踊りで舞台も華やぐ。長唄版と違つて最後は責メとはならず、めでたく幕を切る。後見を尾上菊方師。

番外、六十周年記念『口上』幕が上がると出演者全員が居並び、一言ずつ口上を述べる。「実はこれをやりたかった」という太田怜先生が



## 八、連吟(喜多流)『山姥』

鈴木浩之先生(外科／練馬区) ほか。

〔遠近のたつきも知らぬ山中に〕上路(新潟県糸魚川市)の山姥を謡つ

た難曲中の難曲に挑む鈴木先生は、「この曲は禅問答の真骨頂を人間の世界に置き替えた秀

「今後とも『」最員お引き立てのほど、隅から隅までずすいと冀い上げ奉ります」と幕を切る。

作だと

言われ

ます。深

山幽谷

の雄大

さと深

さを持

った大

曲。どう

ぞお楽しみ下さい」とおっしゃって、

「山めぐりするぞ苦しき」人生の哲

理を問うような内容に、真摯に、心

静かに向き合つていらつしやる。謡

い手の人生が映される名曲であるこ

とが伝わる。



## 九、長唄『一人枕久』

山崎律子先生（杵屋勝くに子）こと。

皮膚科／台東区）、松永忠次

郎師ほかの唄。

三味線は杵屋

勝国師ほか。

囃子入り。

「へ辿り行く」

「へいまは心も

乱れ候」杵屋

勝国師のリー

ドで、「へ行く

水に」しつと

りと、「へ思い

ざさら」な

十、さのさ他、さのさ『車引き』、  
小唄『絆鹿の子』

山田新太郎先生（整形外科／練馬区）の唄。三味線は伊吹清寿師。

「今回は淨瑠璃入りのさのさ『車引き』と、声色入りの『絆鹿の子』



ど廉々をきつちりと描き、「月の漏

るより」からはしんと空気を鎮めて

たつぶりと唄い、「お茶の口切り」

「わざくれ」、「按摩けんぴき」、「廓々

は」へと、歌舞伎の舞台を髪髪とさせ

て盛り上げる。今回「私にとつて

も二十回目の記念の出演となります

ので、この大曲に挑みました」とい

う山崎先生の意気込みが伝わる。

かどかど

の二曲を聴いていたときます」という

山田先生。

「へはい  
ほー、片寄  
れ片寄れ」

から「何と  
聞いたか

【音楽】



### 十一、清元『神田祭』

太田怜先生  
(循環器科/世

田谷区)は、清

元延志佐師ほか

と淨瑠璃を語る。

三味線は清元志

寿造師ほか。「毎

回、私の清元で

ワキを唄つてい

ただいた穂坂美

和子さんが、今

舞台をコンパクトに洒落た掌曲を楽しさで下さる。芝居好きの心意気が張り、機嫌のいい一幕。

「主として立方の踊りの方を見ていただき、一部、地方の方にも耳を傾けていただけ幸いと思います」と太田先生。

お得意の清元の名曲で、気心の知れたメンバーとともに粹に描き出す江戸前の空気が場内を満たしていた。



### 十二、長唄『二つ巴』

今回も切を勤めるのは前村八重子先生(杵屋和重)こと。小児科/東村山市)で、年季の入った達者な三

三兄弟の絵面を描き、もう一曲の『弁天娘女男白浪』浜松屋の小唄では弁天小僧菊之助の見顕わしの名調子を聞かせ、いずれも大歌舞伎の名





味線を披露する。十一代目家元・芳村伊十郎師ほかの唄、前村先生と杵屋栄敏郎師ほかの三味線。囃子入り。

文楽や歌舞伎でお馴染みの『仮名

手本忠臣藏』七

段目一力茶屋の

大星由良之助

(大石内蔵助)

の遊興の場と、

高師直 (吉良上

野介) 屋敷への

討入りの場を併せて、由良之助

の家紋「二つ巴」

に準えた曲。

「花に遊ばば」

十五代目市村羽左衛門の『二人

さん

プログラムに高橋妙子先生の計報  
が掲載されていた。この邦楽祭の実



吉三巴白浪』 大川端のお嬢吉三で喝采を浴びた。

浮き立つ茶屋場に始まり、大薩摩も重厚に、みごと本懐を遂げる大詰へ

きつぱりと弾き分けて、大きな舞台を描き出された。「時はよし、十二月

十四日を前に、この曲が弾けますこ

とを嬉しく思つております」とは、

前村先生の言葉。

「閉会の辞」日本医家芸術クラブ

文芸部邦楽部委員・山田新太郎先生

が六十回記念公演が無事終了したこ

との御礼を述べ、最後に「お楽しみ

(?)」で、日本医家芸術クラブ委員長・太田怜先生の「声色」が披露さ

行委員として長年に渡って心血を注がれ、<sup>ゾ</sup>自身も数々の名舞台を見せて下さった。六十回記念の会が無事幕を下ろしたことを、きっと喜んでいらっしゃることだろう。

次回、第六十一回《邦楽祭》は平成二十八年十一月二十七日（日曜日）、同じく<sup>二</sup>日本橋三越劇場で開催予定。華甲を祝つた《邦楽祭》の新しいスタートに期待したい。

先生は、長唄の三味線、日本舞踊など八面六臂の御活躍で長年毎回舞台をつとめられ、邦楽祭ではいわば常連であらせられた。小柄なお体であつたが芸は大きく、邦楽部の華であつた。昨年の邦楽祭は目出たい六十周年の節目で、その折角の日に先

## 邦楽部 高橋妙子先生を偲んで

太田 恵

一昨年十二月、高橋妙子先生が亡くなられた。その事を邦楽部の誰も

が知らず、昨年秋になつて邦楽祭の出演者を決めるときになつてはじめて発覚したのであつた。

生のお姿を見ることが出来なかつたのは我々にとって残念至極なことです。あるが、先生にとつても心残りの御最後ではなかつたかと推量させられる。先生は洋楽部でもマンドリンで御出演、その芸域の広さは余人の及ぶところないが先生が邦楽部での



第56回邦乐祭より  
(平成22年11月)

「されたものはそれだけではない。

邦楽の演奏では、地方や囃子方が

必要で、一公演でも多人数となる。

それに見合うには三越劇場の樂屋

はあまりにも狭すぎるるのである。そ

のため演目が多くなれば樂屋の割り

振りは並大抵でない。それにつれて

プログラムの順序には苦労されたこ

とであろう。時には現場に直接行か

れて交渉に当たられたこともあつた。

これまで邦楽祭が滞りなく行われた

のも先生の御力の賜物だったのである。

その先生が亡くなられた。我々は

その先生に何も報いることなくお別

れをしてしまつた。その先生があま

りにもヒツソリと亡くなられたので

お礼の言葉さえお伝えできなかつた

のはかえすがえすも残念である。

今はただ先生の舞台姿をしのび、

先生の邦楽祭への愛着や御業績への

感謝をよすがとして御冥福を祈るば

かりである。そして残された我々は

先生の御意志をついで、これから先

も末長く邦楽祭に研鑽することが、

先生へのせめてもの御恩返しかと思



第54回邦楽祭より  
(平成20年11月)



→邦楽祭会場のロビーに飾られた献花台

# 医家隨想

臓器提供者

豊泉 清



ある国際団体の奉仕活動に参加してミヤンマーを訪れたことがある。ミヤンマーは東南アジア諸国の中でも特に仏教が盛んな国の一つで、莊厳な仏教寺院を何ヶ所も参詣する機会に恵まれ、大いに感銘を受けて帰国した。日常生活ではお寺やお経などにほとんど縁がないが、ミヤンマー旅行を契機として、仏教に少なからず興味を抱くようになった。そこで仏教由来の日常語の考察を試みてみた。

他人の命を救うために血液や臓器を提供する人を英語でドナーと呼んでいる。ラテン語で「与える人」を進をする信者をダナと呼んだそうである。サンスクリットというインドの言語のダナは「与える」という動作を意味する。仏教界ではダナを漢字で檀那と表記するが、檀の字が難しいので一般には同じ発音で旦那と書く。つまり檀那（旦那）は金品を「寄進する人」が原義である。

◆和英辞典のお経の項目にはSUTRA（スートラ）という訳語が載っている。スートラとはサンスクリットの「糸」が語源だそうでぬる。経緯（けいい）という言葉の「経」は織物の縦糸を意味し、「緯」は横糸を意味する。「縦糸」という意味のストラを、中国人の僧侶が「経」と読み、吳音で経（きょう）と読む。お経は釈迦の教えを記述した書物である。つまり人生の規範や、物事の

◆昔は奥様と旦那様を一対にして呼んでいた。お寺では檀家という言葉をよく使う。檀家とは一定の寺に所属していて、お寺に金品の布施をする人である。古代インドでは寺に寄進をする信者をダナと呼んだそうである。サンスクリットというインドの言語のダナは「与える」という動作を意味する。仏教界ではダナを漢

◆和英辞典のお経の項目にはSUTRA（スートラ）という訳語が載っている。スートラとはサンスクリットの「糸」が語源だそうでぬる。経緯（けいい）という言葉の「経」は織物の縦糸を意味し、「緯」は横糸を意味する。「縦糸」という意味のストラを、中国人の僧侶が「経」と読み、吳音で経（きょう）と読む。お経は釈迦の教えを記述した書物である。つまり人生の規範や、物事の

# 何々工々丸

卒塔婆

道理の筋道を説いた書物である。そこから釈迦の教えを、長々と続く糸のイメージで表したものと思われる。◆葬儀や法事の際に、故人の戒名を書いた細長い板を墓地に供える。その板を卒塔婆（そとば）と呼ぶが、話し言葉では略して塔婆（とうば）と呼んでいる。サンスクリットで高い塔をストゥーパと呼び、英語にもSTUPAという語形で入っている。卒塔婆はストゥーパの音訳であり、本来は高層建築物を指す。仏教界には高い塔を建てることが故人の供養になるという思想があつたが、貧しい庶民は簡単な一枚の板で代用している。見上げるような五重塔も、墓地の細長い板も出発点は同じ発想に

基づくストゥーパである。

◆恵比寿、大黒、弁天、毘沙門、布袋、福禄寿、寿老人の七柱の福德の神を七福神と呼んでいる。特に最初の恵比寿と大黒は一対となつてよく絵に描かれたり、木彫りの置物として飾られたりして親しみ易い存在である。

大黒天をサンスクリットでマハカラと呼ぶそうである。偉大な王様をインドの言葉でマハラジャという。マハは大きい、ラジャは王様という意味である。カラは黒いという意味だから、マハカラは大きな黒と訳せり。つまり大黒はサンスクリットの直訳である。体格がよくて肌の黒い神様がいたに違いない。日本では大国主命と習合して民間信仰にも浸透している。大黒天も大国主命も大きな袋を背負つて同じような姿で描かれている。

大日如来をサンスクリットでマ

ハ・ルビシヤナのように発音するそ  
うである。マハは大きい、ルビシヤ  
ナはこの世をあまねく照らすとい  
う意味で「日」の字を当てて訳してい  
る。つまり「大日」もサンスクリッ  
トの直訳である。



大日如来

◆鮎屋では米飯をシャリという符丁で呼んでいる。釈迦を火葬にしたら、米粒のような骨が何百個も残つたそ  
うである。その骨をサンスクリットでシャリと呼んだ。米粒が釈迦の骨に似て  
いるので、米飯にシャリとい

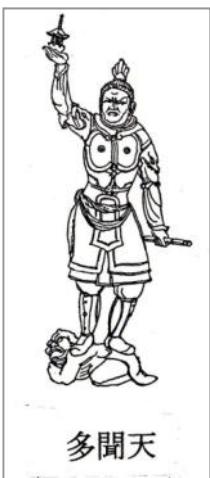
う隱語が生じたという語源説がある。釈迦の骨を納めた建物を仏舎利塔と呼び、仏教界ではシヤリに舎利という漢字を当てている。

◆我慢という言葉を日常よく口にする。忍耐や辛抱という意味で使われており、私どもは我慢を良いイメージとして受け止めている。仏教の解説によると、自己の中心に「我」という概念がある。我慢の慢はサンスクリットのマンという言葉の音訳で、マンとは驕（おご）り高ぶる心という意味だそうである。つまり我慢とは「我」という自意識が驕り高ぶっている状態を指すから、仏教では、それはよろしくないと解釈する。自慢、高慢、驕慢、傲慢、怠慢など、漢字語の「慢」は一様に悪い意味で使われている。我慢も本来は悪い意味だったが、意味がすり替わって日常語に定着してしまったようである。

◆監獄に留置されて自由を束縛された者が、自由な世界を「婆婆」と表現する。また俗世間の名譽欲などに執着する人を「婆婆気が多い」と形容する。サンスクリットでは人間が住む現実世界のことをサハのようになにかと表現した。サハは苦痛に耐え忍ぶという動詞が語源だそうである。人生は苦痛や煩惱に満ちているから、人生イコール忍耐という認識が生じたものと思われる。婆婆も古代インドの言葉に由来する。

◆ある集団の中で特に優れている者が三人いると「三羽鳥」と呼び、四人いれば「四天王」と呼ぶ。例えば大江山の酒呑（しゆてん）童子を退治した源頼光の四天王は、渡辺綱、坂田金時、碓氷貞光、ト部季武の人である。

本来の四天王は須弥山（しゆみせん）という山の四方で仏法を護持する持国、增長、広目、多聞の四人である。多聞天は「成長する」という動詞に由来し、西の広目天は「大きな目を持つ者」の漢訳である。北の多聞天は「あまねく人の話を聞く人」というサンスクリットの漢訳である。多聞天をサンスクリットではビシヤモンのように発音する。そこから毘沙門という音訳の表記も成立した。つまり四天王の多聞天と、七福神の毘沙門天は同じ神様である。四天王の仏像は剣や槍を持つた勇猛な武将の姿が多い。



◆人が醸し出す雰囲気や行動の態度を上品や下品と形容する。品がいい、

品が悪いとも表現する。仏教用語としては上品（じょうほん）や下品（げほん）と言い、品（ひん）を「ほん」と読む。京都の九品（くほん）寺や東京の九品（くほん）仏もやはり品を「ほん」と読む。

仏教では人間の性質を上中下の三段階に分け、更にそれぞれをまた上中下の三段階に分けた。つまり上の上、上の中、上の下から、最後は下の下まで、合計九通りの品に分類し、九品（くほん）と呼ぶ。上の上の品の人は信心深くて善行の功徳を積んで極楽に行き、下の下の品の人は悪行を重ねて地獄に墮ちる。日常語としては極端に簡略化されて、九種類のうち上品と下品の一語だけが使われている。

◆密教系の寺院では願い事を書いた木の札を燃やす「護摩」という儀式を執り行っている。護摩はサンスクリットのゴーマという発音を漢字で

表記した言葉である。ゴーマとは火に投げ入れて燃やすという動作を表すそうである。火は古代から神聖視されて崇拜の対象となっていた。京都の五山の送り火や、鞍馬寺の松明行事や、修驗道の火渡りの儀式など、都の五山の送り火や、鞍馬寺の松明行事や、修驗道の火渡りの儀式など、各地に見られる。

◆般若といふと、恐ろしい形相をした鬼女の能面を連想する。般若是サンスクリットのパンニヤという言葉の音訳と言わわれている。パンニヤは悟りに至る真実の知恵と訳されている。般若に続けて使われる波羅蜜多（はらみた）は、やはりサンスクリットのバラミタの音訳と言わわれている。完全にして最高という意味である。したがつてサンスクリットの語源に基づけば般若波羅蜜多は完全にして最高の知恵と訳せる。なぜ般若が鬼女の能面と結びついたのだろうか。

◆閻魔大王は死者の生前に為した善惡の行為を判断する裁判官のような役目を演じる神として一般によく知られている。サンスクリットのヤーマのような発音を漢字で閻魔と表記したと言われている。亡者が生前に為した悪行を閻魔大王が書き留めた帳面を閻魔帳という。学生の成績や品行などを記録した教師のノートも昔は俗に閻魔帳と呼んでいた。



閻魔大王

◆香川県に金比羅と書く神社がある。コンピラは鰐を意味するインドの言

葉で、鰐が神格化されて航海の安全を司るヒンズー教の神様になったと言われている。金比羅もインドの言葉の漢字表記である。

聖天院と呼ばれるお寺が各地にあ  
る。ヒンズー教に、顔が象で身体が  
人間の形をしたガネーシャという神  
様がいる。仏教に導入されて歡喜天  
と呼ばれている。実物を見たことは  
ないが、歡喜天は象の顔の男女が抱  
き合っている双体の仏像だそうであ  
る。



歡喜天

様となつた。帝釈天はサンスクリットで神々の最高支配者を意味するシヤクのようないきを「釈」の字で表記し、神々の帝王だから帝の字を冠して帝釈と呼んだと言われている。ヒンズー教から仏教に流入した神々が少なからずいる。



帝釈天

◆「「こんにちは」「こんばんは」などと言葉を交わすことを挨拶という。

挨拶も仏教用語で、挨は押す、拶は迫る動作を表す。禅宗のお寺では師匠と弟子が問答をした。師匠が弟子にこれでもか、これでもかと迫り、弟子の返答如何で悟りの程度を判断した。この問答の過程が挨拶だそう

である。したがつて挨拶とは「こんにちは」「いいお天気で」などというのんびりした会話ではなく、出発点は真剣勝負の口頭試問だったようである。

◆依怙龕窟（えこひいき）という言葉もよく口にする。自分が好意を持つ人に特別に便宜を図る行為である。依怙は人が仏の助けを求め、龕窟は頼つて来た人を仏が慈愛の心で救うという仏教用語だそうである。つまり依怙は人間の行為、龕窟は仏の行為と解釈できるが、現在はあたかも一語のようないき」と言つてゐる。

檀那、卒塔婆、舍利、娑婆、毘沙門、護摩、般若、閻魔などの仏教語は、サンスクリットの発音を、漢字を発音記号として利用して音写した表現であり、経や大黒や大日や多聞天はサンスクリットの意味の漢訳であることが判つた。私どもは無数の

サンスクリット由来の仏教語を、それと気付かず口にしている。今後も更に仏教関連のネタを集めて続編を綴つてみたいと思っている。

## 葉山の友人

穂苅 正臣

今年の日本の夏は異常な天候だった。三十五度近くの暑い日が何日も続き、それが終わると、関東や東北各地で、五十年に一度いや九十年に一度と言うような激しい雨が降り、堤防が決壊して水害が発生する、という有様であった。

そんな雨の止んだ九月中旬の日曜日に、葉山に住む友人宅を訪れた。彼はK大学時代から全日本の代表だった有名なサッカーの選手で、卒業後はM社に勤務し、傍ら、十年以上も企業や全日本サッカーチームの監

督をしてきた。さらにまた、サッカー選手がサッカーに専心出来るような環境や体制の整備をし、ドイツサッカー界とのパイプ役ともなり、日本サッカーの成長を大いに推し進めた。

彼がサッカー界を離れてから三十年にもなるが、現在はドイツサッカー界の帝王とも言われているフランツ・ベッケンバウアーが名付けた「パツ・パ・ニーニョ」（お父さんといたずらっ子）という名前のコーヒー専門店を開いている。その彼が日本サッカーの殿堂入りを果たしたことを新聞で知つて直ぐに祝電をかけ、翌日の夕方には室内とともに彼の家を訪ねられた。

夕食に、彼の家から暗い道を歩いて五分ほどで日本家屋を改造したという簡素なイタリー料理店に案内された。イル・レフエージオ（隠れ家）という名前のごとく誰にも知られたくないと言うような人里はなれた場所に、そのお店はあった。しかし、

くれた。

一杯のコーヒーにも彼は、自分で挽いたコーヒー豆に湯を注ぎ、よく混ぜて、あくを抜き、長時間を掛ける。情熱を持つて入れてくれたそのコーヒーは大変おいしかった。

二十年近くもヨーロッパに滞在して仕事をしていたので、彼の家の道具や調度品はすべてヨーロッパ調である。二十人もお客様を呼んでバーベキューパーティーが出来るほどの広さのベランダが家を囲み、そこから葉山の町、さらには太平洋が見える。さらにその先には夕焼けで赤く照らされた美しい富士山が見えた。

葉山の高台にあるその家は広い庭を持ち、道路に面した入り口には、日本家屋を改造したセンスの良いお店がある。

そこで自慢のコーヒーを飲ませて

お店の中は明るく、お客様で賑やかであります。葉山で取れたという新鮮な魚料理もおいしかった。

そこで、食べものについての話になつた。エリザベス女王は一日、五個の鶏卵を食べるという。彼も、若いころから（結婚前から）毎日五個以上食べていると言つた。料理の上には鶏卵を必ず乗せるというのである。医者である私は、一週間に鶏卵を七個以上食べると高脂血症の原因になり、身体に良くないと思つていた。

彼は学生時代のよう、現在も顔つやが良く、身体はがつちりしている。驚いたのは、今まで大きな病気をしたことがなく、医者にかかるて注射を受けたこともないとのこと。薬も飲んだことがないとも言つた。さらには一度も健康診断を受けたことがないのだという。海外に駐在していた時も、日本からの来る巡回診療のドクターの検診でも、体童を計

つたり血圧を測つたりするぐらいで済ませたそうである。なんと常識破りな彼である。

ところで、彼の母は九十歳まで元気で一人で自宅に住んでいたとのこと。毎日買い物に出かけ夕食を造り、病気一つ知らずに元気に過ぎし、入院もせずに百三歳で亡くなつた。亡くなる三十分前に家族を集め、「体が浮くからみんなで抑えて」と。そして最後に

「みんな仲良くね、さようなら」

と言つて亡くなつたそうだ。息をひき取つた瞬間、十数人の子や孫たちが彼女の寝ているベットを囲み、何ら申し合わせをしたわけでもないのに、みんなで「拍手」をした。その夜、赤飯を炊いて母の旅立ちを祝つたという。

彼の母は十九歳で結婚し、夫とロンドンに住んでいた。そのころの父との想い出を子供たちに話し、住ん

でいた所番地までも覚えていた。母の亡くなる直前に、その住所を口にしたが全く正確であつた。病気を知らず、ボケも全くなかったのである。そんな彼の母の血統を彼は受け継いでいるのかもしれない。そして、彼は「自分には介護保険も老人保険もいらない。自分の体調に神経を研ぎ澄まし、母同様に楽しく余生を過ごして、次の世界に旅立つ」とさえ言つのである。

### チエホフを読む（9）

咲きおくれた花

（N. I. コロボフに捧ぐ）

藤倉 一郎

1882年チエホフ22歳の医学  
のときの、初期の作品である。友人コ

口ボフに捧げられているが、彼はエホフの家に寄宿していた同級生で生涯の親友であった。崩れゆく貴族の悲哀と、這い上がつてゆく医師のたくましさが感じられるが、最後の医師のやるせない愛情がみられるところは、今までのユーモア小説をこえた好短編である。

プリクロンスキー公爵の長男エゴルーシカは放蕩三昧のため、公爵夫人と妹のマルーシャに説教されている。先代はヨーロッパ各国の大天使を務めたし、先代も連隊長としてその名もとどろいていたというのに、当主の公爵はこわれかけた辻馬車で泥酔して送られてきた。翌朝のたうちまわつてるので医者の往診を頼んだ。医者は危険だというので、トボロコフにもう一度往診を依頼した。彼は若い指折りの優秀な医師で貴族のような生活をしていた。トボロコ

フの父は農奴で侍僕だつた。母方の伯父ニキーフオルは今でもエゴールシカの侍僕をしている。トボロコフ自身も少年のころナイフやフォークや長靴やサモワールを磨かされたものである。診察の結果、ドボロコフは彼女たちに希望を与えた。

その夜マルーシャが熱を出し、翌朝ドボルゴフは一人を診察した。マルーシャは肺炎だつた。1週後二人とも全快した。公爵夫人はドクトルに240ルーブリそつと手渡した。診察後紅茶を飲んで雑談をしたが、彼は聰明で知的で学識があり、エゴルーシカの友人とはまったく違っていた。母と兄はドクトルのことを気品が足りないとか、やはり農奴の子弟だとかけなしたが、マルーシャは強く引かれるものがあつた。

公爵家は貧しくてお金はなくなるし、エゴールシカの放蕩はつるる一方だつた。クリスマス前の、ある日ある日エゴルーシカが、「ドクトルは商家の娘と結婚した」ときいてきた。いよいよ負債が重なりプリクロ

老婆がやつてきて仲人だといつて、ドボロコフの写真を渡した。夫人もマルーシャもびっくりした。どうしてドボロコフは自分で来ないで仲人をよこしたのか不思議だつた。仲人は「持参金は6万ほしいそうです」と追加した。

ンスキー公爵家は屋敷を手放し小さな家に移住せざるをえなくなつた。町屋へうつてから、まもなく夫人は絶望のうちに亡くなつた。

マルーシャは秋になつてドクトル・ドボロコフを訪ねた。休診日で不在だった。自宅にはエゴールシカとガール・フレンドのカレーリアがいて、酒を飲んであそんでいた。エゴールシカとカレーリアは相変わらず食事も贅沢だった。マルーシャは父の年金で暮らしていたが貧しかつた。

翌日マルーシャはドクトル・ドボロコフを訪ね診察を受けた。診察室には大勢の患者が待つていた。マルーシャは最後に診察を受けた。風邪薬を処方して彼女にわたした。しかし何の話もしなかつた。

エゴールシカはカレーリアを一緒に住ませたいといつて、マルーシャがことわつたにもかかわらず、死ん

だ母の部屋に入つてきた。カレーリアはマルーシャを非難し、当てつけ、薄笑いして貧しさを嘲笑した。

マルーシャは冬になつてもう一度ドクトル・ドボロコフを訪ねた。診察して聴診し、ラツセルが聞かれた。「サマラへ転地する必要がありますね」と医師はいつた。その後言葉を交わすこともなく、マルーシャは帰つた。自宅ではエルゴーシカがカレーリアが出て行つてしまつたと泣き叫んでいた。

マルーシャは老僕ニキーフォルに5ルーブリ借りてドクトル・ドボロコフをもう一度訪ねた。診察室は午後4時になつてしまつた。診察を終えて「外気にさらさないようにしてください。もう帰つていいですよ」といわれた。マルーシャはささやくように「愛してます。先生」といつた。奥から妻が「あなた」と呼んだ

のでドクトルは診察室を出でいった。10分ほどでかれが帰るとマルーシャは長椅子に横たわっていた。

ドクトルは古い昔を思い出していた。そして「私はお金や上流婦人のためだけに、あの困難な道を歩いてきたのだろうか?」と考えた。

「でも僕がなにをしてあげられまっす?」といふとマルーシャは「お茶をください」といつた。

翌日ドクトルはマルーシャと一緒に一等車の個室に乗つて南フランスへ旅立つた。結局3日とまたずマルーシャは亡くなつた。

ドボロコフはマルーシャを意識していたのだが、彼女を救うためには何かしなければならないとまでは考えていなかつた。マルーシャの一方的な恋であつたのだが、彼女の真情を思うとき、南フランスで静養させてあげようと思つたのである。しか

し、病状は進行し死亡するのである。こんな温かみのある医師になつてくださいといふ意味で友人に捧げた小説かもしれない。22歳の作品としては優れている。

## 『ほんによう』棒掛け

### —水沢の秋の風物詩

浜名 新

平成27年9月下旬、東都生協の产地訪問、「生産者との交流会、JA水沢、協賛・稻刈り」にカミさんと参加した。

約1か月前、ある夕飯時に、カミさんは、

「東都生協主催で、岩手の稻刈り体験、生産者との交流会に参加しますか」と尋ねた。パンフには、「9月26日・27日の土・日の1泊2日。新幹線で水沢江刺を往復。第一日目が、

生産者所有の田んぼで、収穫する稻の手刈り体験、『ひめかゆ』温泉の宿で歓迎会と宿泊。翌日、奥州市の観光・帰還」となっている。

「手刈りによる稻刈り体験とは懐かしい、『ひめかゆ』温泉で癒されるスケジュール。気に入つたよ。土曜の仕事を休んで参加しようか」

稻の手刈りも懐かしいが、岩手の内陸部にある『ひめかゆ』温泉にも一層ひきつけられてしまった。名前がすばらしいではないか。

「出発日は土曜日なので有休休暇を取つてくださいね」

「ああ、明日にでも申請しとくよ」

カミさんは最近のスーパーでの買い物事情に話題を変えた。近所の生協では、新しい店長がこまめに、2割引、3割引、4割引の赤札を商品に貼るようになつた。来店のタイミングがずれて、安い値段で買いそごうして、残念な思いをすることもある

そうだ。夫婦2人、独り者の高齢者の家族が多くなつてゐるため、食材は沢山要らない。多く料理すれば食べ残つてしまふ。

私はもつぱら聞き役になり、「ああそなのが、それで・・・と相槌を打つと、「聞いているの?」と問い合わせられ、うわの空で聞いていることがばれてしまう。

何年か前、東都生協主宰の長野県の某市で1泊2日の高原トマトの朝摘み体験に参加したことがあつた。農作業用の服装、軍手、タオルを持参した。作業の前に、日本のトマト生産・需要、世界のトマト事情と比較など盛りだくさんの説明・レクチャーを聞いた記憶がある。現地の高原トマト畑は広大で、参加者が朝摘みしている高原トマトは、生協の「こだわり 高原朝摘みトマト 無塩、ジユース100%果汁」の原料として、利用されていることがわかつた。

私ども消費者が長年愛飲している製品で、安心この上ない。

当日、東京駅に集合し、参加費を支払い、チケットをいただく。盛岡行きの新幹線は8時40分過ぎ発車した。参加者は17名、小学生以上の学童、4人も参加。曇り空で雨が降っている地域もある。何しろ、東京水沢江刺間は、縦長の相当な距離で、地域により大気圧や雲の分布が異なり、天候は刻々変化する。

水沢江刺で降車し、JA水沢、協賛の中型のバスで生産者の小野寺さん宅に向かう。あいにく小雨で心配がよぎる。

小野寺さんと奥様、実の娘さんとお孫さん2人が心をこめて接待してくれた。軒下には板張りのデッキがこしらえてある。大皿には小ぶりで、真つ白なつやした新米のおにぎり、別皿には庭で拾ったという栗おこわのおにぎり、大鍋で炊かれた芋

汁、手作りの蕪（かぶ）の漬物・沢庵・ラツキヨウなど用意されている。

初対面の挨拶が済むと、「さあ、どうぞ召し上がつてください」、「遠慮なくいただきます」と早速、おにぎりをパクパクとほおばる。小野寺さんたちと一緒に食べている。

周囲を見ると、若夫婦とお孫さんの新しい家、奥には2棟と農作業用の建物があり、それらを囲むように背の高い、茂った樹木林が見事である。家の通路脇には小ぶりな菜園とコスモスの花が咲き、自宅の通路に接して市道と思われる4メートルの道路が建物と平行してどこまでも延びている。

道路に平行した左側には広大な田んぼが広がっている。その田んぼの中に、案山子（かかし）の親分みたいな、大きな地蔵さんみたいなものが並び、よく見ると稲束が干されて

いた。参加者は見慣れない光景に驚きの印象を抱いた。

「あの地蔵さんみたいなものは、東京あたりでは見かけませんね」と誰かが言つた。

上下そろいの農作業用の服装に、着替えていたあるじは、

「収穫した稲束を天日干しにする、『ほんによう』です。岩手のこの地方の秋の風物詩ですよ。棒くいを田んぼに打ち込んで、一番下に稲束を支える40cmぐらいの棒2本を十字に固定して、稲束の茎のほうを支えの棒の上に置き、稲穂が垂れ下がるように干して、養分が米粒にたまるようににするのです。稲束が落ちないように方角を変えて交互に積み重ねていきます」

「地方によつては、ハザ（稻架）とも呼ぶようですね。僕の田舎の遠州地方では、鉄棒のような感じで、地面に平行に吊るして干していまし

た。大昔、稻作が盛んだった頃、かやぶき屋根の骨格のような、かなりの段を有す高いハザを、何人の協力で造っていました。小学低学年の頃、遊んで叱られた記憶があります。今、稻作はすっかり靡れてしまいましたけれど・・・

「天日干しの仕方も、地域によりいろいろあるようです」

「天日干しのお米は多少割高でも、美味しいので、消費者に人気があるのですか」

「そのとおりです。自宅で食べるコメもそうしております」

「雨は大丈夫ですか」

「この地方では、この時期あまり降りませんね、3週間ぐらい干して、脱穀・精米します」

「天日干しのお米はブランド米として、高く評価されておりますか」

「もちろんですよ。皆様に、いま、食べていたいているのが、天日干

ししたブランド米の、我が家のかヒカリです」

「どうりでおいしいわけだ、ナツトク！」

『ほんによ・天日干し』談議に、参加者と生産者との距離が一気に縮まり、ランチタイムが和やかに過ぎていく。参加者たちのお腹は、おも

てなしの食事で満たされた。空を見上げると、雲が流れ、青空が現れ始めて幸先がよい。

農協の青年たちも集まってきた。同時に、鋸力マ、軍手、簡易レインコート、作業用の前掛け、長靴などを並べ用意万端、まことに行き届いている。

稻の茎を握り、田んぼから出ている茎の下のほうを刈り取るようして下さい。鋸力マで自分の手を切らないように、鋸力マでの皮膚の傷(きず)はすごく治りにくいですから。これた後はカマを田んぼに立てて下さい」と稻刈りの注意点を強調した。

『稻束を束ねる紐は昨年の稻わらを使います、3~5本くらい掌を上

にして親指と人差し指の間に茎のほうを上にいれて、稻わらの上に刈り取った稻、2握りぐらいを稻わらの上に置き、稻わらを交差してふたひねり、みひねり、茎のほうを、巻いた稻わらに押し込みます。昔から行われた束ねる仕方で、ほどけませんのでご安心ください』

「稻わらの両端で結ばなくていいのですね。いつか、映像で洋服などのボタンをつけるとき、糸を結ばないで留めた糸の間にしまいこむ方法

を紹介しておりました」

「順手とは親指を上にして、握りこぶしを作る要領です。逆手（さかて）は鉄棒で逆上がりしたとき握る仕方ですが、稻刈りでは怪我をする割合が多く、順手が原則です」

子供も大人も中腰で、順手で稻束を握り、茎の下の部分を鋸カマでサクッと、小気味よく刈り取っていく。鋸カマがよく切れる。逆に束ねるのが慣れないでうまくいかない。あるいは参加者の間を観察して回り、手助けし、注意し、うまくいくと相手をほめまくる。長いこと自動車の教習所の教師をしていたそうで、教え上手、ほめ上手である。

農協の職員は棒くいを田んぼに試しうちを繰り返し、最期に下腹に力をこめて深く打ち込んでいく。稻束が落ちないように十字に短い棒を、棒くいに括り付け、稻束の置き場所を作っている。参加者は稻束を完成

させると『ほんによう』の支えの棒に稻束の茎の端を上に、穂が下になるように置いていく。次は稻束の茎が重ならないように、方角をかえて積み重ねていく。各自4回ぐらい稻を刈り、稻束を作り終えた。

頃合いをみて、あるじは稻刈り機（バインダー）を操作して、稻を刈りはじめた。この機器には専用の麻ひもの束が取り付けられ、刈り取つた稻を麻紐で自動的に束ね、ポイッと外に放り出してくれる優れものだ。

女子の小学生が興味を示し近寄る

と、あるじは学童に、稻刈り機の操作を体験させた。学童は機器のハンドルをもち、稻の列をはみださない

ように、稻刈り機を慎重に操作して、稻の収穫体験をし、満足したようだ。

将来農業に興味を抱くかもしれないのではないか。

栗を見つけ、足や鋸カマで、つやのある茶色の栗を取り出していた。「栗拾いですよ」と田んぼにいた参加者に呼びかけてくれた。皆さん熱心に栗拾いに興じた。栗は熟すると自然落果する。

お別れのときを迎えた。小野寺さんの奥さんは、自家用に備蓄している栗やにんにくを持ち出してきて、にこにこして希望者にお土産として差し出してくれた。参加者は申し訳ない気分でいただいた。小野寺さん一家、農協の人たちに、感謝してお別れした。

次に立ち寄ったのはピーマン農家のT氏宅であった。あるじはピーマン畑に参加者を案内し、説明しながら、「たくさん採つてお土産にどうぞ」と豪快に言つてくれた。参加者は遠慮なく、緑色、あるいは赤色のピーマンをたくさん採つて満足したようだ。花梨（かりん）の木に実がなつ

ている。あるじはビンに入った『かりん酒』を持ち出して、「どうぞ呑んで下さい」と誘つたが、誰も呑まないので誰かに手渡した。

午後4時過ぎ、今夜の宿、『ひめかゆ』に到着した。パンフには、焼石岳温泉 焼石クアパーク 『ひめかゆ』とあつた。1家族1部屋で、大きめの部屋で、大休み。宿でおもてなしの茶菓とお茶が用意されたのは江戸時代で、歩き疲れた旅人を癒すためだつたとか。この風習が現代に続いているのは大変好ましく、外人にも喜ばれるに違いない。

温泉は薄緑色で、なめるとしょっぱく、多少ぬるぬるする、ナトリウム塩化物泉で、泉温は70度強で、皮膚病など適応症も多い。素晴らしい湯であった。

歓迎会は大広間で行われた。生産者的小野寺氏、T氏も参加され、J

A 水沢所属の幹部の『挨拶のあと、生協会員暦の長いSさんが生産者と生協の活動を感謝し、乾杯の音頭。皆さん唱和！ 地元芸人による岩手民謡と踊りが披露され、次いで自己紹介と稲刈りの感想など、『駆走とお酒で宴たけなわとなつた。』

翌日、9時半過ぎ出発、宿に近い

奥州湖交流館で所長さんの説明を受けた。胆沢（いざわ）川とその下流の扇状地の形成・清水下遺跡・前方後円古墳・角塚古墳が存在。

昭和21年に石淵ダム建設・昭和28年ロックヒルダムの完成、その後洪水調整・灌漑用水・水道用水・発電・正常流量を目指し、昭和58年起工した胆沢ダムが平成25年竣工し26年管理移行されたことなど、盛り沢山の解説があつた。

稲作には水の供給が必須で、扇状地の農家の間で水戦争が起き、昭和38年茂井羅堰と寿庵堰に、水を均等

の配分させる巨大な円筒分水工が設置されたそうだ。胆沢ダムの堰堤の散歩と巨大な分水工（時差で分水する）を見学した。

水沢物産センター、道の駅来夢館で昼食、花の栽培農家を訪問、高さ20メートルの物見櫓から、田んぼアート（何種類かの稲の品種別に植えてアートに仕上げる）の見学。車中でお土産あてクイズがにぎやかに行われた。

ご当地、奥州市の観光マップには、岩谷堂たんすゾーン・南部鉄器ゾーン・前沢牛ゾーンと、歴史上の人物（高野長英・後藤新平・斎藤實・菊田一夫の記念館）、藤原清衡公生誕の地に藤原の郷、平泉町には中尊寺・毛越寺などの観光・歴史遺産が数多く記載されている事実を知つた。

（平成27年11月）

# 龍の背の理想郷

出来 尚史

そもそもの発端は「りゅう座」を見たことがある。「りゅう座」は北の空に掛る星座だ。大きい星座だがあまり目立たない。一番明るい星で二等星。これが一つだけで、あとは三等星、四等星…。どの星をどう辿つていけば「りゅう」の形になるのか、長い間私はわからなかつた。初めて成功したのは小学五年生の夏だ。そして、それを機に同じような夢を二度三度と繰り返し見るようになる。龍の登場する不思議な夢——これからその話をしようと思う。

夏休みに入つたばかりの夜、私は庭にいて星空を眺めていた。夕涼みというには少し遅い時間であつた。虫の音も聞こえず、あたりは静寂に

包まれていた。星々は天にあつてその輝きを競い合つてゐる。地上に注ぐは夏特有の濃密な光の雲だ。特別の理由があるわけではない。しかし、その宵ばかりはいつもとは違うような気がした。魔法の世界にでも入り込んだような感じ、とでもいうのだろうか。

右手、天の川の中にカシオペア王妃が座つてゐる。左手に対座するのは大熊の偉大な尾、北斗七星だ。真ん中には可愛い小熊の姿がある。そして——あつ、「りゅう」だ。「りゅう」がいる！ 私は興奮した。それまでその形を一度も捉えられなかつた「りゅう」。それが夜空にくつきりと浮き出ていたのだ。

大きい！ と思つた。「りゅう」の頭は天頂近く、ヘラクレスの足元にあつた。長い頸を北へと伸ばし、そこから百八十度転進して胴だ。その後はもう一度大きく曲がり、これま

た長い尻尾を小熊と北斗の間に收めている。天空に逆S字を描く堂々たる星座だつた。

「りゅう座」の「りゅう」はもろん西洋の龍のこと。ギリシャ神話では、黄金の林檎を守る龍として登場する。しかしこの夜、私の頭に浮かんだのは日本の「龍」であつた。日本の、と言つて語弊があれば、東洋の龍。一本の角と長い鬚を生やし、四本の肢を持つ龍。雲を呼び、稻妻を走らせながら天高く翔る、あの龍である。

「りゅう座」の主脈、逆S字の周りに目を凝らせば、小さな星が角や四肢を形作つてゐるのがわかる。素晴らしく均整のとれた姿ではないか。これが東洋の龍でなくてなんである。星として天に鎮座するくらいだから偉大な龍に違ひない。もしかしたら龍の王？ そうだ、東洋の龍王が星になつたんだ！ 新発見でもし

たかのように私の心は弾んだ。

飽かず眺めていると、不思議なことが起つた。星が龍の形を保つたまま天空から剥がれたのだ。落ちたのではない。自然に、すつと離れた、という印象だった。

フワリ——宙に浮いた龍は、ゆっくりと体を伸ばした。驚いたことに星でできたこの龍は動く。伸ばした体を曲げ、また伸ばした。少しづつ大きくなっている。きっとこちらに向かっているのだろう。さつきまで骨組みだけだったはずなのに、いつの間にか実体の備わった立派な龍になつていた。遠く離れていても優雅さ、気高さが伝わってくる。さすがは王者だ。

目頃絵で見る龍は荒ぶる神であつた。だがこの龍は違つていた。厳かな中にも優しさが感じられる。これは僕の龍だ、僕だけの龍だ——私は密かにそう思つた。今日は地球巡視

の日かもしれない。近くまで来たら絶対挨拶をせねば——。

満天の星空を背景に、龍の王はゆるりゆるりと降りてくる。地球の一小少年の決心などまるで知らぬげに。

「遅いから家に入りなさい」

親の呼ぶ声で我に返つた。同時に龍の姿が消えた。「りゆう座」は再び天に掛る。私は幻を見ていたのだろうか。

その夜、夢を見た。冒頭に記した「龍の夢」シリーズの第一回目である。

夢の中の私は軒端に立つていた。昼なのか、夜なのかはわからない。目の前に途轍もなく大きい物がいる。

「いる」と言つたのは、それが動いていたからだ。地上5mくらいの高さに浮いたまま、右から左へと緩やかに移動していく。機械というよりは生物の動きのように見えた。

下の面は暗くて見通しが悪い。随分と奥行きがありそうだ。上はどうかと思つて仰いでみた。はるか上方に一片の空。あの辺がこの物の上面の境界か。横方向には切れ目がなくどこまでも続いている。いつたこの物の正体は？

あつ、龍だ、と私は夢の中で叫んだ。頭も尻尾も見えないがこれは龍だ。天から地球に向かつて降りてきた龍、あの龍が夢に出てきたのだ。やつと着いたんだね、お疲れ様。そつと声をかけてみる。無論返事はない。龍の頭はずつと先の方。私の声など聞こえるはずもなかつた。

夢で見る龍は白っぽい色をしていた。私は時々色付きの夢を見るが、その日の夢は白黒のままでした。白あるいは薄い灰色の胴体には鱗らしき物が見て取れる。一枚一枚が百mはあるうか、という代物だ。鱗一枚でこの大きさ、全體は推して知るべし。数km？いやいやそれではきくまい。

龍はその大きさを自在に変え得る

い出すことはなかつた。

といふ。となれば、今見る姿よりもさらに大きくなれるということか。地球規模の巡回にはそれも必要かもしがれぬ。しかし、巨大化すればするほど人間との繋がりが希薄になつていくような気がする。心配だ。離れることなく私たちのことを見守つていてほしい、とその時真剣に思つた。音もなく悠然と龍は行く。今私が見ているのは多分、龍の胴。前足はもう過ぎてしまつたということだ。

このまま待つていれば後足が見られるかもしれない。そして尻尾も。しかしどれだけ待てばいいのだろうか。眼前の光景はいつまでも同じままである。私は小さなあくびをした。

その後のことは憶えていない。とにかく夢はそこまでだつた。朝が来て時間切れになつたのかも知れなかつた。なにぶん遠い昔の話だ。夢は記憶の底にしまいこまれ、長い間思

夢を見た。登場したのは子供の頃見た、あの龍である。記憶が一気に蘇つた。夢の中で昔の夢を呼び起こすとは——私の夢は入れ子構造か。

今回の夢も眼前の胴体から始まつた。龍は色も大きさも変わりないよう見える。変わつたのは私の方である。夢を見ている「眼」、あるいは「脳」としての私は、地上に縛られることなく空間を自由に移動できた。私は上へ上へと昇つて行つた。わから時間はさほどかからない。あつ

という間に龍の背中が見えるところに出た。広大だ。見渡す限り特徴のない平面が続いている。

新しい世界は、その大部分が自然そのまま、といつた感じだつた。龍の背中に開けた世界だから、まさに字義通りのバックカントリー。私は山を駆け、谷を走り、水面を掠めて行く。爽やかな風とやわらかい陽光

突起も見えてきた。前方遙か彼方に見え隠れしているのは龍の角かもしれない。もう少し上がつて全体を視野に、と思ったが、それ以上は無理だつた。私の「眼」もその辺りが限界らしい。

が道連れだ。なんといつても夢の中。風景は瞬時に入れ替わり、飽きることはない。

湖を越えたところで思いがけず人に出くわした。田畠があり、馬や牛が草を食んでいる。人々は額に汗して農作業の最中だ。東洋系の顔だが日本人のようではない。近くの家を覗いてみた。庭で子供たちが遊んでいる。元気あふれる笑顔がまぶしい。いつの間にか場面は変わり、私は街の中にいた。街と言つてもさほど大きくはない。ここは皆が集う所そして交易の場所。そぞろ歩く人々。荷車を引く馬車も通る。街角で談笑する女性たちの姿がある。誰も急いでいない。馬でさえ屈託のない様だ。広小路には市が立つていて。作物、衣類、雑貨……どれも手作りの温かい品物ばかり。おや、あちらの方からおいしそうな匂いがする。

——と、ここで夢はおしまい。い

つものことだ。大事なところで夢は終わってしまう。次の日の夜、床に就きながら考えた。子供の時に見た夢と今回の夢について。

最初の夢はどうにか理解の範囲内だ。私は小さい頃から龍が大好きだつた。数ある幻獣の中でも常に第一位。龍の絵を見、描き、龍の出て来る本をたくさん読んだ。一方で大きい物への憧れもあつた。天を覆い尽くすほど巨大な龍。そのイメージはいつも頭の中に存在した。そこへもつてあの日の出来事——天から幻の「りゆう」が降りてきた——が重なる。あの夜の夢は正にしかるべきして訪れたという気がするのだ。

今回の夢はそれほど単純ではないし、謎も残る。二十年もの時を隔てて同じ龍の夢を見た。このこと自体尋常とは思えない。子供の時とそつくりそのままの龍だなんて、私の知

能が少しも発達していないことの証ではないか。

しかもその龍の背中に、私はもう一つ別の世界を造つてしまつた。いつたい何を考えていたのだろう。いや考えるというより意識下の問題か。それでも山や川を呼び入れるだけならまだよかつた。そこに人を住ませる。龍の背に人里?いやこれはいかにも大胆な設定だ。それにしても、と半ば呆れながら考える。あの人たちは何処からやつて来たのか、と。思ついたのは中国の物語だ。桃源郷。私の夢に桃の花は出て来ない。しかし、村の情景には似通つたところがあつた。もしかしたら夢のモデルはその物語なのかもしれない。はあるか昔に読んだ話。それが私の頭の中に刷り込まれており、夢の一部として転写された。そう考えても不思議ではない。ならば——と私は勝手に解釈を進めていく。

物語では村人の先祖は戦乱を避け、彼の地に住み着いたことになつて、いた。私が夢で出会つたのも地上の難儀を逃れて来た人たちだったのか。あるいはその末裔？

龍の背に至る道筋は不明だ。集落は最初シェルターとして始まり、時を経て街を形成するまでに発展したのだろう。人々の穏やかな顔つきから、今は愁いの無い平和な世界にいることが窺える。災厄に打ち拉がれ地上を追われた民。彼らは龍の背に安住の地を見出したのだ。

強く念じれば夢の続きを見られる、そう信じて布団に入った。けれどもその夜は見事な空振りだった。龍の背の町や村は今後どうなつていくのだろう。あれが理想郷というものならば、その行く末を確かめたかった。

これまでと同様、龍は唐突に出現した。気付いたら眼前にいた、とう感じだ。相変わらず巨大だ。空間のすべてを塞いでしまいそうな勢いでゆっくりと進んで行く。ズームイン、ズームアウトのできる私の「眼」も健在である。さつそく「眼」に乗り込み、高い位置まで昇つてみた。その日の龍の背は格別大きな起伏もなく、全体として平らな印象を与えた。そして歓迎すべきことに、色が付いていた。総天然色ではないが、部分的に彩色されている。

向こうの方にオレンジ色の屋根が見えた。尖った塔は鐘楼か。瞬く間に白い壁の瀟洒な家や石畳が近づいた。噴水の周りで子供たちがはしゃぎ回っている。乳母車を押す母親たちの姿も見える。カフェのテラスからは賑やかな話し声。窓には綺麗な花が飾られ、楽器を弾く女の子の顔がのぞいている。ヨーロッパの街をそのまま移したかのような光景だ。

明日のことはおろか今日の見通しも立たない、そんな日々であつた。世界のそこかしこで不穏な空気が流れているようだつたが、目を向ける心の余裕もなかつた。

不意に場面が切り替わつた。華やかなパレードが目に飛び込んでくる。足並みを揃えて楽隊が進む。きらびやかな衣装を着けた踊り子たち。山車の上でフェスティバルの女王が手を振つてゐる。紙吹雪が舞い、ティップが頭上を飛び交う。衣装や肌の色からすると南米の謝肉祭に近い。本家本元のような喧騒や狂乱はないが、人々の興奮熱氣は本物だ。

景色は一変した。眼下に緑の牧草地が広がつていて。丸めたティッシュのように見えるのは羊の群れだ。こちらの視線に気付き、慌てて走り

それから二十年後、私は再び龍を見た。三度目の夢である。私は五十

始めた。逃げる様がなんとも可愛い。羊の姿に見とれると何時の間にかブドウ畑に出た。収穫の時期だろうか、大勢の人たちが忙しそうに働いている。今年も美味しいワインができるように。

チューリップと風車の組み合わせはいかにもオランダ風。民族衣装を着けた若者たちが集まっていた。赤、黄、紫の花畑には彼らの笑顔がよく映える。今日は運河のピクニック？あれあれ、ゴンドラが出てきた。同じ運河でも、こちらはヴェニスだ。なんとも目まぐるしい。漕ぎ手の歌声に聞き惚れる暇もあらばこそ、舞台はまた移動。今度は港町にやつてきた。逞しい男たちが荷物を運んでいる。船の大きさからいって遠洋航海だろうか。陽気な掛け声があたりに響く。

その後も私はいろいろな街を訪れた。前回の夢に出てきたのは東洋人

風の集落が一つだけ。今日の夢はどうしてこんなに多彩なのだろう。次々と移り変わるシーンに私は驚きを禁じ得なかった。

黒い肌の子供たちが住む村にも行つた。大きな魚を釣り上げた男の子は真っ白な歯を見せ、全身で喜びを表していた。ゲルの傍らで乗馬の練習をしている少年たちにも出会った。もちろん日本人にも——全員が着物姿なのには苦笑した。

イヌイットはアザラシ猟の真っ最中。オアシスの木陰では隊商が休んでいた。ターバンの下にのぞく彼らの瞳は、思つていたよりもはるかに優しかった。

夢というわずかの時間にずいぶん沢山の場所を回つたものだ。龍の背の広さにも限りがなかつた。あれだけ多様な民族を一堂に受け入れ、いささかも動じるところがない。夢に出てきた人たちは大人も子供も明るく

く活き活きとしていた。誰もが心から生を享受しているように感じられた。時代背景がばらばらだつたせいでよくはわからないが、皆が皆、苦難多い故郷を捨てて移ってきた人ばかりとは思えなかつた。

もしかして私は、龍が一から造り上げた世界を見ているのだろうか。地上とは似て非なる別天地。地上にあつては実現し得ない平和で豊かな世界を、龍が創造したというのか？皮肉な見方をすれば、それは一種の実験社会だ。しかし、何のために？「地上世界に範を垂れるため」などと安易なことは言つまい。私には龍の世界の大部分が未だプリミティヴな状態と思われた。各民族がそれぞれの文化を成熟させつつある段階。国と言う概念すら生まれていないようにも見えた。

人口増加と資源のバランスはうまく取れていくのか、民族間の交流が

深まれば何が起きるのか、相携えて困難に立ち向かうことができるか？

いや待て。地球の尺度で推し量るのは止めにしよう。ここは龍の世界だ。全く新しい人類の歴史が始まるうとしているのかもしれない。地上に住む私たちがこれまで一度も到達できなかつた理想の社会。人間といふ不完全な存在が、龍の力を借りてそれを実現できるしとたら、そんな喜ばしいことはない。たとえそれが地上から離れた別の場所であつても。

時は移り——現在。  
龍の再訪を私は待つてゐる。今のところ待ちぼうけだ。姿を見ないと心配になつてくる。過去に三度、ほぼ二十年おきに龍の夢を見た。間違いなく四度目がやつてくる頃合いなのに。

「龍が来ないのは全く他の理由からだ。あの実験は成功したんだよ。龍はいとも簡単に楽園を造つてしまつた。人間には到底理解できない方式でね。もちろん人間自身も変わら必要があった。感情の無いロボット社会のことを言つてゐるのではない。

悲しみや苦悩がより少ない、愛と慈しみに満ちた世界だ。人間でもやれる。それを確認した後、龍はその人たちを乗せたまま地球を去つた

信じられない話だ、と私は呟いた。だが信じたいような気もする。「新世界の創造は失敗に終わつた」説よりもはるかに心地好い。しばしの葛藤

に脆かつた。新世界は瓦解したのだ。私の中で悲観的な声が囁く。もしそうだとしたら人間の愚かさのせいだ。

「それは違う」と別の声が言う。

「龍からもつた人類再興のチャンスを生かすことができなかつた。

の後、私の中で楽観論に軍配が上がつた。

龍はきつと戻つて来る。新たに準備を整えて。今度来た時は地上から直接人を引き入れることになるだろう。龍の背はこれまで以上に大規模な楽園造りの場となるに違いない。今再び魔法の力が働いて、人々が動き出す。歴史が新しく始まる。その場面をこの目で見てみたいと願う。戯けたことを」と笑わば笑え。所詮はこれ、夢の話だから……。

五月も終わろうとする頃、桁外れに大きな雲を見た。その日の私はビルの十階にいた。あれは積雲だと思う。無数の積雲が次々と横に繋がつて長いひとつの大雲を形成している。延々と続き、両端は全く見えない。私が今いる場所から見通せないと、うことは、おそらく数kmに亘つていいのだろう。いやもつとか。高さは

1km弱、幅もほぼ同じサイズ。なんのことではない。白い巨大なチューブが空に浮かんでいる様だ。表面が通常の雲のようにモコモコしていないので余計にそう見える。チューブと異なるところは中空ではないということだ。私はこれまでこんな奇妙な雲にはお目にかかることがなかつた。

そこで思い当たつた。夢の中の龍、あれが現実の世界に現れたら、この雲のような形を取るかもしれない。今見渡しても頭や足は見えない。しかし夢でもそうではなかつたか。私はあの時、龍の背ばかりを見ていた。龍の背の新しい世界、安寧の地に住む人々の笑顔ばかりを。

雲はわずかにカーブを描きながら南から北へと移動していく。あまりに緩やかな動きなのでそれとは気付かぬほどだ。上面は陽を浴びて燃えるように白く輝いている。そこには

人の姿は見えない。それでもなにか大切なことが起きつつあるような、そんな気配が感じられる。

「乗つてみたら」と雲が誘う。

窓を開けて一歩踏み出す。

一瞬、ほんの一瞬だけ、私はそうしたいと思つた。

## 小平市医師会研修旅行

白矢 勝一

返り、その雄々しき姿に感銘を受けたことであろう。とにもかくにも小平医師会研修旅行はちよいと一味違つた趣のあるものである。

さてここに旅の記憶を留めおくよう仰せつかつたが、この研修旅行を記すに至り幾分客觀性を欠くことになつたがお許しいただきたい。

バスは東大農学部正門に着いた。

この正門には東大紛争時代、農学部自治会委員長、副委員長立候補者として私の名前が大きく張り出されていた。この学内でアジテートしたりデモをやつたり：本気で日本を変えるつもりでいたのである。東大医学部の封建的な医局制度への抗議から端を発した紛争は教養学部、文学部へと若さ、情熱あふれるところへと波及し全国に広がつていった。最近ようやく学生たちがかわいいデモをするようになつてきた。浅薄で情緒に流されてはいるが若いということ

朝九時頃バスに乗つて谷根千散歩にでかける。谷根千（やねせん）とは、東京都文京区から台東区一帯の谷中（やなか）・根津（ねづ）・千駄木（せんだぎ）周辺地区のことである。東京の下町風情が残るエリアである。小平医師会研修旅行は日本の医学の歴史を探索することで広く知られている。道行く人々はかの格調高き人々はいかなる団体であろうと振り

はいいことである。行動が頭より先に出るという行為は東大紛争以後当局によって筑波法がつくられ皆無となっていた。霞が関は毎年のように法律をつくり自分たちの都合のいいように国民の行動を制限してきた。しかしそうやく今回の安保法案で感情的に動く学生がしてきた。よく考えず損得なしで行動する若者がでてきてしまは元気になる。「イギリス人は歩きながら考える。フランス人は歩いた後で走り出す。スペイン人は走ってしまった後で考える」最近の日本人は歩いてはいるが他人の眼を気にしすぎいつも考えすぎていたのではないかと思う。今回の若者のデモはスペイン的だ。日本はアメリカの属国なのである。それを肝に銘じておくべきである。原爆を落とされ、空襲で爆弾を落とされ、軍事基地を置かれても一切文句が言えない。経済的にも軍事的にも属国である

るから従うしかない。安倍首相が支持率が下がつても法案を通した理由はアメリカのことを聞くしかないということだ。

なにはともあれ当時はよく損得を考えず無茶をやつたものである。学舎に立てこもつた当時の紛争時代を思い出しながら、構内へ。

我々の時代は渋谷のハチ公前、六本木のアマンドなどが待ち合わせ場所として名をはせていた。ところが

最近農学部校内に忠犬ハチ公の像がつくられ観光名所となつたようだ。

しかし私にとってはやはり奥にある校舎の最上階が一番懐かしく思えた。

当時そこに泊まり込み、夜遅くまで友人たちと議論していたものだ。紛争時代を思えば平和で静か、退学にもなつた学生がいたのが夢みたいなものに思える。

農学部正門を後にして根津方面に歩いてゆく。東京聖テモテ教会のそ



東大農学部校内のハチ公像

ばを通る。この教会は歴史のある建物だつたそうだが、戦争で焼け現在の建物になつてている。東大の周りにはキリスト教会が多いそうだ。その理由は頭のいい人材をキリスト教徒にしたいとの考えがあつたとのこと。坂を下りて根津神社に向かう。この谷根千には100以上の坂があるそ

うだ。坂にもいろいろな形や歴史があつて名前がついているとのこと。そういういえば学生時代向ヶ丘寮から夜よくお化け階段を通つて仲間たちとそぞろ歩きをしたものだ。当時お化け階段の下り口に高い塀があつた。そこに地面から2メートル達する黄ばんだ幾条かのシミが認められた。

その幾何学的文様は日々変化し、地域の名物となつていて。道行く人々は、これは如何なる意味があるのでろうかと首をかしげたものである。現在はこの階段は下りるときと登るとき階段の数が違うということでおばけ階段と名づけられたということになつてゐる。しかし当時の奇怪なこの文様がこの名称を与えたと言つても過言ではないと思う。つまりこの階段の歴史的名称は我々向ヶ丘寮生の日頃の行いのタマモノである。当時寮生は誰彼となく飲み屋を求めて上野方面に出かけたりお化け階

段へと向かつたりした。

そのうちの何人かが戦

に出向く前に出すもの

は出しておこうと、一斉

に壁に向けて放出する

のである。誰が一番高く

飛ばせるか？剣道部の

T君はなんといつも頭上超えをやり、常に他を寄せ付けずトップであつた。そのT君はその後腎臓を患つたということである。諸氏、飛ばしすぎには注意すべし！である。

我々が卒業したのち、その壁は取り壊され階段も今はきれいに舗装されている。今では語るものもいなくこの文様がこの名称を与えたと言つても過言ではないと思う。つまりこの階段の歴史的名称は我々向ヶ丘寮生の日頃の行いのタマモノである。当時寮生は誰彼となく飲み屋を求めて上野方面に出かけたりお化け階



根津神社の千本鳥居

寮生であつた頃とほとんどかわつてない。ツツジの頃はとてもすばらしい。乙女稻荷は最近外人にも人気があるとのこと。学生時代は女性とともに夜の風情を楽しんだ輩も多かつたようだ。坂道を上り日本医科大学に向かう。そこを通りながら医学の歴史にちよいと触れさせていた。長谷川康による済生学舎は3年で卒業することになつており、ここを出て医術開業試験を通り、多かつたそうである。その人たちの中でも有名なのが野口英世、荻野吟子、吉岡彌生である。野口英世や吉

岡彌生は語るに及ばずであるが、荻野吟子については一言述べておきたいい。渡辺淳一の『花埋み』という小説を読んだのはいつのころだったろうか。渡辺淳一は不倫の中に本当の愛があると公言し『失乐园』などとみに有名である。恋を妨げる大きな壁があると公言し『失乐园』などと燃え上がる。さもありなん、さもありなん。

それはさておき、この作品が一つあるだけで彼の評価は大きく変わってしまうだろう。彼が大学病院医局の当直室を掃除させられたとき「北海道医報」という、道医師会で出している小冊子を偶然見つけたのである。その中に「日本で最初の女医來道す」という見出しで、荻野吟子のことが書かれていた。それが荻野吟子を知るきっかけであったそうだ。こういうことがなければ荻野吟子は永遠に歴史の闇に埋もれていたかも

しない。

十代で結婚、夫に性病（淋病）をうつされ約2年で離婚。東大大学病院に入院するが、担当医はすべて男性であり、とても恥ずかしい思いをする、このつらい経験から「女医が必要である」と思考医師になることを決意するが、ここからが大変だ。

学校では男子生徒にトイレのドアをドンドン叩かれたりする嫌がらせの連続。優秀な成績であつたにも関わらず医師国家試験が受けれなかつた。

しかし多くの人の助けと彼女の熱

意が実り、ようやく受験が認められ1884年と1885年に前期後期にわかつて行われた医術開業試験で、悲願の合格、こうして日本に女医第一号が誕生した。このとき35歳。女性になることを決心してから十数年が経過していた。

次に夏目漱石旧居跡を見る。

夏目漱石は、イギリスから帰国後の明治36年から3年間ここに住んだ。この間、東京大学英文科・第一高等学校の講師として活躍する一方、処女作『我輩は猫である』を執筆し、この旧居は作品の舞台となつた。『倫敦塔』『坊ちゃん』『草枕』等を次々に発表する。

なお、家屋は愛知県犬山市にある。

彼女の人生は波乱に満ちたものであつた。再婚し北海道へ。渡辺淳一

「明治村」に移築され公開されることのこと。

私が彼の作品に親しんだのは18歳ころである。高校の先生

が漱石の由来を説明してくれ、また

その各々の小説について黒板に書いて説明してくれたのを覚えてい

る「吾輩は猫である」「坊ちゃん」など

痛快な作品から「道草」「草枕」など

則天去私に至る漱石の心境を黒板に書いて説明してくれた。東京教育大学出の国語の先生は田舎育ちの我々にはとても新鮮に見えた。

漱石の由来は、中国西晋（せいしん）の孫楚（そんそ）は「石に枕し流れにくち漱（すす）ぐ」と言うべきところを、「石に漱ぎ流れに枕す」と言つてしまい、誤りを指摘されると、「石に漱ぐのは歯を磨くため、流れに枕するのは耳を洗うためだ」と言つて、「まかした故事からだそうである。つまり自分の失敗を認めず、屁理屈（へりくつ）を並べて言い逃

れをすることだそうだ。

千駄木ふれあいの森を通って、森鷗外記念会に到達。即興詩人や舞姫などなつかしい古本が展示されている。

漱石、鷗外、芥川などは高校生のころ大半読んでしまい、その後読んだことはない。しかし、今でもその内容を思い出せるのは歌謡曲と一緒に若いころ覚えたものはなかなか忘れないためだろう。「石炭をば早や積み果てつ。」ではじまるこの小説を何度高校生のころ読み返したことだろう。内容だけでなく文章が美しい、今思えば鷗外の実体験、結ばれない恋をそのままやりついに書いた心情が心を打つたからであろう。

舞姫にてくるエリスが鷗外に会いにドイツから来たという話を半信半疑で高校のころ授業で聞いた覚えがある。ところがどうも本当の話だったようだ。インターネットで下記

のような記事を見つけた。

鷗外「舞姫」エリス特定？ 教会の出生記録に名前、「別れ」後の職業などなつかしい古本が展示されているモデルと判断した根拠として▽來

日時の乗船者名簿にある「エリーゼ・ヴィーゲルト」と名前が合致。帰国後に帽子製作として働いているのが、鷗外の妹の回想と一致。出生地のシュエチエンが「舞姫」の中にも登場

来日時に21歳という年齢も妥当などが挙げられている。また、鷗外の娘の茉莉（まり）と杏奴（あんぬ）は、エリーゼのフルネームと、その妹（アンナ）から命名した可能性を指摘している。

ドイツ在住22年の六草さんは語学力や土地勘を生かし、2009年6月から半年間の現地調査でエリーゼの出生記録にたどり着いた。

「舞姫」発表から120年の昨年

には、テレビディレクターの今野勉さんが鷗外の遺品にあつた刺繡（しゅう）用型板のイニシャルを分析し、「15歳ルイーゼ説」を唱える著書を刊行。新説登場でモデル論争がまた熱を帯びそうだ。

即興詩人を読んだのは中学生のころである。この小説はアンゼルセンの小説を鷗外が美しい古文調で翻訳したものだ。何度も読み返し涙したのを覚えている。

ローマのベルベリーニ広場、トリートンの噴水の雜踏の場面からこの物語は始まりまる。

イタリアにあこがれたアンゼルセンはこの国の各地を小説の中にちりばめている。アントニオとアヌンチヤタの悲しい恋の物語。アヌンチャタの手紙の部分を何度も読み返し感涙。さて昔読んだ恋愛小説で今も覚えているのはと考えてみると「リンドの樹」「緑の館」。すべて悲しい結

末である。近松心中物語でもわかるように結ばれない恋ほど涙誘うものはない。

余談が多くなつたが、この鷗外記念館に続く团子坂がこの旅最後の散歩コースとなつた。团子坂は、漱石

の「猫」三四郎」、森鷗外の「青年」、二葉亭四迷の「浮雲」江戸川乱歩の「D坂殺人事件」にも登場。どれもこれも若いころ読まれた方が多いと思われる。

正岡子規も『自雷也もがまも枯れたり团子坂』と团子坂の菊人形の様子を詠んでいる。

我々小平医師会の猛者たちはこの険しい坂道コースを終え浅草に向かってバスに乗つた。

バス中から浅草の問屋街が見える。

包丁屋さんとか、金物屋さん、瀬戸物屋さんなど歩いたら面白そうなお店が並んでいる。



今半のすき焼き

浅草今半に到着。ここのはすき焼きはうまい。江戸時代牛肉は将軍家への献上品、養生の薬と謳われた特権階級のものだつたそうだ。ここの中は品川屠場から直接のものだそうだ。獸医学科にいたころ、この屠殺場を見学したことがある。多くの牛や豚が見る見るうちに湯気を立てながら肉に変わっていく。東京都の食欲

を満たすにはどれだけ多くの命が失われることか。

英語では牛は生きているときはオツクスとかカウ。豚はピッグである。肉になるとビーフとかポークとなる。生きている時と名称が変わるのである。日本ではそのまま牛肉、豚肉である。これは歴史の違いで目の前で牛や豚を殺して食べる習慣がなかつたためかと思われる。これに対しても鶏は昔から食べられていたから肉になると日本ではカシワと名を変えるのではと考える。

日本人は新鮮な魚を好んで食べる。今までこそ寿司とか刺身が欧米人に受け入れられているようだが、昔は残酷だと気持ち悪いとか評判は悪かった。文化の違いであろう。新鮮な牛肉は確かにおいしい。明治二十八年、百年を超える歴史の味を堪能して今回の旅を終えた。

## 主治医への遺言

斎藤 三朗

子宮がんで最後をむかえた  
片山さん（72歳）

### B、C型肝炎から栄養障害になった

午前の診療が終えて廊下に出た時、患者一人がなにか包みを抱えて、

「院長さん、この頃見てないどやの姉御さん、入院してるんですね。お見舞いにミカンならいいでしようか。」

「ええ良いですよ。なんで片山さんのお見舞いなんだね。」

「ええ、姉御さんには普段からお世話になつてて、今頃昼飯食べて帰りたがつて、今で困つてん所なんだよ。」

### 片山さんとの付き合いは私の医者の成長に

この病院に勤めて五年して初めて片山さんが診療所から紹介状をもつてきたのだった。病名には慢性B型肝炎にさらに慢性C型肝炎の二つをもつたのだった。B型のほうはどうも母親ゆずりのもの、彼女は東北地方生まれの方での理由から考えられた。ウイルスの定量を見てもそう多くはなかつたし、抗体も出来始めたようで、まずはC型肝炎の治療から始めたわけ。

インターフェロンを中心に行なって、Cウイルスは痕跡程度になつたが、完全には消失しなかつたがまず成功とみて以後觀察することにした。Bはまだ完全に排除できるものがなく同じように外来で、ミノフアーゲンを定期的に注射してたのでした。

しかし肝臓は徐々に肝硬変に進行していった！

片山さんは普段アルコールは飲まないが、付き合いでは少々飲むこともあったという。60歳を過ぎた頃、肝硬変の侵攻とともに腹水が溜まってきた。診療所の紹介状をもつて二度目の入院となつた。腹水やアンモニアの上昇があつて厳しい治療が続けられて3週間ほどでかなり体調が回復したので退院になつた。その後2年間は無事に過ごしたが近所の人気がしばらく見ないので訪問した。

片山さん、全身特に左肩の痛みで動けないと！

年末までは週一回診療所の外来に通つていたが、それまで食事は自分で作つていたが、次第に億劫になつてコンビニで過ごすようになつたという。年が明けて正月、片山さんが

床を敷いたきりで、「いたいよ」と叫んでいた。これは大変だとして診療所に行き紹介状を書いてもらい清水ヶ丘病院に救急車で入院となつた。

どんな顔で病院にきたのかが気になつたが、私を見た瞬間片山さんは笑顔で「先生またお世話になりますよ」との挨拶には私は驚いた。

地域のお医者さんが土曜日にもかかわらず診て戴いて、その後も磯子の病院にまで電話して治療していたにはこれほど感激したことはなかつた。

左肩の痛みはかなり古い脱臼のもの

だつた

いそぎレントゲン撮影したが脱臼がハッキリと見えた。近くの整形外科医に相談室のM.S.W渡邊さんが車椅子に乗せて出かけた。

左肩痛がなくなつて本来の病気が出てきた！

おもな症状が取れるともう退院の口ぶりがでてきた。  
「先生動けるようになつたので退院したいのですが。」

まず先生は長時間かけて整復を努力したが巧くいかず、「土曜日だが磯子にうまい整形外科の先生がいるので電話しておくからそこにすぐいてみては」と。早速渡邊さんは車椅子ごと電車で磯子まで行き、そこで回復を待つた。先生は「この脱臼

「ちょっとまつてね。お腹の腹水がとれないし、貧血が進行してるしね。」「だるいのは年末からろくなものが食べていなかつたせいですよ。病院の食事がおいしいので元気がでまし

た。」

「肝臓も栄養不足からで腹水も増えますのでもうちょっと我慢してくださいね。」

ようやく納得して片山さんは静かになつた。がしかし尿のなかの血液がおさまることなく続いていたし、尿の中に異常な大きな細胞がみえてきた。エコーで下腹部を見ると子宮が変形して膀胱にはみだした膀胱ポリープが直径5センチにもなつたものがあつた。血尿の原因はこれだつたのだ。腎臓は左が変形して腫瘍らしいものがみえた。改めて胸のレントゲンを見ると両方の肺に小さな円形の影が多数見えた。

☆ ☆

主治医は回診の時と、昼休みの時をつかつて詳しく話をした。

「片山さん。今度の病気は私も想像できなかつた大病だよ。既に病気は末期になつてゐるんだ。手の施しようがない状態だよ。あなたならどうし

てほしいか正直に話してくれないか。」

片山さんは目をつむつて、

「少し時間をください。今度こそ私は人生は終わりだと思います。本当に有難うございます。」

「私は東北の田舎生まれでして、農家がいやで、一人東北から横浜に流れ着いてそれは苦労の連続でした。

亭主も一人に恵まれましたが先立たれてしまい、今は天涯孤独の身になつてしましました。一人暮らしですから僕約して小銭をためて、どやの正直な人に金を貸したりしました。先日でしたが一人の人がミカンをもつてきましたがふたりとも正直な人です。」

「だんだん息が苦しくなつてしましました。もう話が出来るのは先生だけです。本当に世話をになりました。ごめんなさい。」

午後の時間、片山さんは静かに息をひきとつたのでした。合掌。

※この病歴は「病院便り」29、30号に抄録が掲載しております。

### 膀胱がんで全身に転位した

中山さん（72歳）

#### おれも大仕事やつたんだね

ある日正午に玄関が急に騒がしくなつた。今救急車が入つたのが騒ぎのもとらしい。看護師が「先生この患者さんどうしても入院はやだと大声で叫んでるんですよ。」

さて私の出番。

「どうしたんだね。さつき前の病院から主治医の先生からお願ひされた患者さんだね。あなたは病気からみて入院しなければ行くところは無いんだよ。なぜ入院はいやだというんだね。」

「病気は膀胱がんであちこちに飛び火しても治らないと言われたんだ。診療所で尿に血が混じったのが原因になつたのだつたよ。」

「話は入院してからゆつくりと聞くからベッドに行こうね。」

「なんだか俺は先生と馬が合うようだな。」

やがて二階の大部屋のベッドに紹介された山中さん。開口一番「うわーこの病院は特別な病院だ！軟なベッドに羽根布団！おれは生まれて初めてだよ。」それに病室に行く前にシャワーを浴びてすっかり気に入ったのだった。

「早くこの病院にはいればよかつたのに。大病院での検査では手遅れなんだよ。手術や放射能での効果がないのだよ。72歳をとまで医者が言うのだから自暴自棄になつたのが判るだろう。」

今まで全身の痛みで何回も麻薬を

うつてたのが嘘のようだと看護師にも話していた。

入院後11日目、朝飯が気に入つたのか「久しぶりに米が食べられたよ。お昼もきっとお粥だろうがこの病院の食事は素晴らしいよ。」

### 苦労しつぱなしの60歳代

「俺は身体の丈夫が自慢で若い頃から日雇い一本で日銭で暮らしてきたんだ。戦後は一時苦しかつたが東京オリンピック過ぎてから景気も良くなつて日雇いは稼げばそれだけ日銭が入り、酒やタバコは好き放題、賭け事もほどほどで楽しかつた。女にも苦労しなかつたんだ。でも家庭は持たなかつた。面倒臭かつたのだつたんよ。」

70歳を過ぎた頃、小便が急に赤くなり、友人に聞いても膀胱炎とは違うようで、近くの診療所での尿検査ではどうも見慣れない大きな細胞が

あり、詳しくは泌尿器科で検査をやつもらうべきと紹介状を書いてくれたのです。」

「そうこうするうちに腰が痛みだし頭もズキズキ痛みだし来たんです。3週間してどこかの病院に移動をと言われて清水ヶ丘病院への紹介状をもらつて救急車に乗つたわけ。」

救急車の中で呼吸停止となり急ぎ県立の病院に移動、その時は既に意識がなくなつて呼吸がとまりかけていた。痰の詰まりが原因で気管の中に太いビニール管が挿入されたのです。丁度清水ヶ丘病院への紹介状があつたので、医師から改めて清水ヶ丘病院に電話があり救急車で來たとのこと、また病院であちこち管が差し込まれるのは金輪際いやだとごねたのでした。

### Yさんの生き方に感激して

ある日の回診の後の事、先生が「Y

さん、今夜ＴＶで往年のスター、石原裕次郎の『黒い太陽』があると新聞にあつたよ。』という話が小耳に入つた。Ｙさんは寝るまで『黒い太陽』の話をしてくれた。話の中心は昭和36年だつたが黒部に大型の人工ダムの発電設備 大型タービン2台は、2年にわたる突貫作業には苦労があつたのだと。

やがて日立から昔の施盤工の経験をいかしてほしいとさがしだしてもらつたわけ。2年間働いて「普段は日立の下請け職工として働いていたので仕上がりがつた大きなタービンを夜中トラックで積み込んで映画にあつた『黒い太陽』のまだ水漏れがする地下道をゆつくりと進んだことに誇りを持つたんだよ。」『Ｙさんが肝臓がん末期になつても労働者として誇りをもつていたのを俺はその時に感激し涙を流したんだよ。』

そういうえばおれも何か誇れるような仕事はなかつたのかと寝床に入つて考えてみた。

## 京成線の成田空港までの直行列車建設！

国際空港の成田までの足は不便であつたが、京成電鉄が短期間に直行便の建設を計画した。当時浅草観音様付近で仕事をやつていた俺が当日日雇いで応募、それこそ昼夜で高架線の建設に従事したのだった。夕方浅草まで帰ると富士山が美しく映えていたのが疲れをいやしてくれたのを仲間と喋りあつた。

そうだ「この高架線こそが俺が誇れる仕事だつた！」……

その後、彼は満足な顔色をしばし見せてくれながら、3日後遺言らし

いことば「俺も偉大な仕事をやつたんだ」の口数少なくしゃべつて、お昼のお粥をすつてから静かに亡くなつた。

丁度私が清水ヶ丘病院に勤め出した頃のこと。尿の検査で見たら塩分がかなり高めの12グラムだつたの

※この文章は「清水ヶ丘だより」32、33に抄録が掲載してあります。

## 肝臓がん（ワイルス以外の）で生涯を終えた山之内さん（78歳）

### 高血圧と糖尿病では優等生！

もう長い事、9年にもなるだろうか、山之内さんとのお付き合いは長かつた。体格もよくいかにも筋肉労働者だつた彼は日雇いから千されて関内の地下道で仲間達と共に生活をおくつっていた。毎月一回の浮浪者の救済合同会議で山之内さんは清水ヶ丘病院での検診に受診したのだった。身長は180センチで体重は98キロだつた。

つた。

で、まず“浜風・はまかぜ”にお願いして食事の塩分をさげてもらつた。糖尿はさほど出なかつたので、内服剤を使用して様子をみてたが血圧も安定してきた。体格も良いのでエコーで肝臓を見たが左肝臓に脂肪が沈着した以外問題はなかつたのでできれば毎日一時間位の外歩きを勧めた。山之内さんはキチンと指示を守つたので、外来では優等生でした。

ある日の午後、体重が急にふえて！  
夏場の暑いとき、山之内さんはしばらくぶりに外来に見えたのです。  
「暑いので外来は2ヶ月ごとにしましたがどうしたの。」

「体はなんともなかつたのですが、ズボンのベルトがハマらなくなつたんですよ。」「先ずお腹を見てみようね。おへそが見えなくなるほど膨らんでいるね。エコーでちよつと見てみようね。腹

が張つてゐる原因はどうも左の肝臓で大きな塊ができたつまりガンが圧迫したせいでお腹に腹水がたまつたんだよ。」

「でも先生は肝臓がんはウイルス、BとかCに多いといったんですね。俺の肝臓にたまつた脂肪はガンにはならないと安心してたのにね。」

「そうなんだよね。でもこの夏開かれた『日本肝臓ガン研究会』の発表では、B、Cウイルス以外から発生するというのがあつて注目されたのでした。たつた一例でしたが糖尿病を持つた方でした。ですから油断してはならないのです。」

「もう外来では限界ですよ。」と医者も看護師や、医療相談室の渡邊さんや栄養士の石原さんまで入院を勧めたのですが、彼は相変わらず「入院はもう少しですから待つてほしい」と。彼は外来で「俺の面倒をみてくれる人がもう少ししたら来てくれるので。」

「その人はどういう方なの。」「今は東北の原発跡地で働いてるんだ。」

「可愛いペット、二匹の二十一日鼠  
やがて山之内さんが12月末近く入院してきました。

「そつと私に小声で話してくれたのは、「じつはね、俺は一人暮らしです

しばらく腹水のたまりに注意していたのか、ちよつと油断すると腹水が増加してくるのですが、しかし12月になると近所のお店では、減塩のものが減つてきたんで、彼が苦労して遠くまで出かけたのです。

ので、三畳一間で慰みものとしてもう十年近く二十日鼠を飼つてゐるんです。もう今のは三代目ですが車椅子にも声をかけると上手に乗つてくれます。声も小さいですが飼い主の云うことも判つてくれるようです。俺が入院して面倒を見てくれる人は付き合いから福島に出稼ぎに行つた人しかないのでね。一ヶ月分の餌“ヒマワリの種”を用意したのでやつと入院できたの、ごめんなさい。』

☆ ☆

正月から三ヶ月過ぎて会い向かいの山中さんとの『黒い太陽』の映画の話が登場してきます。

・・・半ば省略・・・

郎や石原裕次郎らの男の映画で公開とともに大ヒットになつたのでした。ちようど回診で診察の際、「スポーツ新聞にていたが今夜『黒い太陽』がテレビで放送すると、山之内さんがもう見ただろうか。』

「当たり前ですよ。俺もこの黒よんダメの発電機を作つたのですよ。映画が始まつた途端、俺も日本一の仕事の片棒を担げたのだと、友達と祝杯をあげたのでした。』

☆ ☆

「あの時の感動は一生忘れないですね。黒い太陽とはよくいったもの、俺も大型のタービンを二トントラック二台に夜中に積んで府中から北アルプスへ、そこから天井からまだ水が落ちていたトンネルを進んだ時は感動と鼻水、涙が混じつた中、数

つていいのだよ。』

そこまで話すと彼は静かに深い息を吸つて目を開けてじーっと私を見ながら「俺は大層な仕事をやつて命を終える幸せ者ですよね」とかすれかすれ遺言をして鬼籍にはいったのでした。

#### 【主治医への遺言について】

私の病院は最近療養病院になり、入院される方も多くが単身か、家族とかまつたく無い患者さんが多いです。末期のがん患者もその中に多くいて、口が利ける患者さんとは最後まで手を取り合つて「主治医に最後の言葉」を話すのです。

確かに中部電力が北アルプスの山並みを貫いて巨大なダムを作つたのは昭和30年初めの事、8年かけて黒よんダムが完成したのです。当時日本では大型の水力発電がなく黒よんダム成功し、黒澤監督のもと、三船敏

## 第13回サイパン戦跡巡り

2015年10月12日～19日

協力 美濃部 幸恵  
(英語スペイン語訳)  
美濃部 欣平

真っ青な海と空、エキゾチックな



Hafa Adai from SAIPAN



日本の皆様、新年おめでとうございます。

僕たちサイパンに住んでいるサイパンダです。  
サイのお父さんとパンダのお母さんガロタ島で結婚して  
新婚旅行で来たサイパンが気に入って移住。そして僕たち  
サイ+パンダが誕生しました。  
島には奇妙、カワイイ、思わず笑っちゃう！  
いろんな僕たちサイパンダグッズがあふれています。  
素朴で明るくやさしい南洋の島民と楽しく暮らしています。

熱帯植物、色鮮やかな南国の花々、  
広いロビーには、英語、日本語、中  
国語、韓国語、ロシア語など多国籍  
の言語が、ワイワイ、ガヤガヤ、ど  
こかのんびりと飛び交います。  
南の島のリゾートを楽しみにやつ  
てくる若人や、家族連れの姿は日本人  
とかわりません。平和つていいなあ。  
写真の二人のおじょうさんの他に、私は中国  
のおばさんとも仲良くなりまし  
た。共通の手段は漢字。彼女は  
中国西安の人。  
ロビーのテープルの上に透明の  
プラスチック水筒を置き、手提  
げから乾燥させたいろいろな小片

ロビーのテープ  
ルの上に透明の  
プラスチック水  
筒を置き、手提  
げから乾燥させ  
たいろいろな小片

を取り出し、その中に入れます。  
小さな赤いバラは花開き、キノコ  
や生姜、果物のかけらなどのエキス  
入り即製ドリンクができました。  
「美容と健康にいいのよ。  
彼女は達筆な漢字で「自分の住所  
も書いてくださいました。日本からお手  
紙お出ししようかしら？」  
私にとつては近くで遠い、中国、  
西安に。



「一緒に写真撮ってください」とやって来たのは中国のおじょうさん二人。日本の若い人と変わらず可愛くて明るい。日中間の緊迫した関係もとびっきり笑顔で吹き飛ぶといいなあ。

亡き父が中支漢口陸軍病院の軍医として「お父さんは病氣の支那人たちも沢山治したよ」と生前何度も兄に語ったその言葉を急に思い出しました。

が見えます。その奥に旧日本軍の壕があることも初めてしりました。

戦前日本人移民や日本軍の信仰の中心であった香取神社は戦争で焼失

してしまいましたが、戦後コンクリ

ー造りのお社が再建されました。

小ぶりながら今回の大型台風に耐

2015年8月2日の大型台風後、園内や裏山の木々が倒され、まったく様子が変わってしまった神社

2015年8月2日の大型台風後、園内や裏山の木々が倒され、まったく様子が変わってしまった神社

☆香取神社（旧彩帆神社）

☆野戦重砲兵黒木大隊慰靈碑

☆弾薬格納庫

☆アスリート飛行場

☆アギンガン岬砲台トーチカ

☆チャランカノア日本人家屋

☆米軍上陸地 江藤大隊慰靈碑

チャランカノア・ビーチ



#### 神社の境内

数日後、日本から香取神社の神主さんが秋の祭礼にいらっしゃるとの事。戦後神社の再建のため尽力をつくされた関係者の方々は、どんなにがっかりされるでしょう。



タイフーンにも負けず！こま犬さん「おすわり」

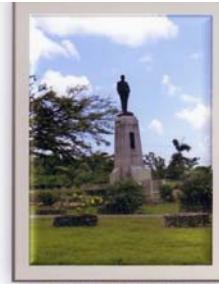
「ま犬さん「おすわり」  
暴風に吹き落されても 負けません！  
隣の大きな石灯籠の屋根も吹き飛

ました。しかし、日本から運ばれた鳥居の立派な大しめ縄は、どうなつてしまつたのでしょうか。

ばされました。

下方の赤い屋根は老人施設です。

以前は戦争孤児の日系老人も入つておられましたが、美しい海がのぞめる無縁墓地で眠つておられます。



大型台風上陸後のシュガーキングパーク



砂糖王(上)

松江春次氏像とシュガーキングパーク内の倒木(下)

サイパンと日本人の歴史遺産ともいえる戦跡や建造物がコンクリートの塊となつて、ゴロゴロ落ちているのを見るのは本当に残念です。

「停電中だけどダイジヨウブ」と氣丈に笑顔で家主のジャックさん。赤いブーゲンビリアやハイビスカス、色とりどりのお花と緑の芝生、古い日本家屋を飾つていた南国のお

☆シュガーキングパーク ガラパン  
砂糖王松江春次の銅像は、戦時中アメリカ軍の猛爆撃にも、71年後の今回の巨大タイフーンにも倒れません。会津藩士の血を引く松江氏の武魂が銅像に宿つているんですね。

島南部観光の定番スポットに日本委任統治時代からの刑務所跡があります。分厚いコンクリートの壁や塀が崩落して、あちこちに破損が見られました。

### ☆チャランカノアの日本人家屋

戦前南洋興発株式会社の宿舎であり、戦火と70年余りの歳月を経て現存する2軒の日本家屋。「無事かしら」と心配でした。

「校長先生の宿舎だった」と言われる家屋の方は、チャモロ人の老夫婦からお孫さんの代へと住み継がれてきたおかげで、良好に保存されました。

同公園も写真のよう、見事だつた熱帯樹の大木が倒れたり、枝をちぎられたりし、景観が変わっていました。

この家は、チャモロ人の大家族らしく、いつも大小の洗濯物が沢山干され、南国の太陽を浴びてゆれていましたのに。

### ☆日本人刑務所跡 ガラパン

島南部観光の定番スポットに日本委任統治時代からの刑務所跡があります。

それでいて、内部は空になつています。

無事に避難したのでしょうか。

この家は、チャモロ人の大家族らしく、いつも大小の洗濯物が沢山干され、南国の太陽を浴びてゆれていましたのに。



花は全滅してしまい、とても御気の毒でした。

「副校长先生の宿舎」の方は、空き家になつていてもともと廃屋に近い状態でしたが、大型台風上陸にも負けず倒れることなく残つていました。けれど玄関から裏口まで暴風が通りぬけたのか、一層傷みがひどくな



アメリカ軍上陸地点  
チャランカノアビーチ  
1944年6月15日　日米が死  
闘を繰り広げた海岸です。  
現在この海岸には、2つの慰霊碑  
があります。



## チャランカノア 戦前「副校長先生の宿舎」ともいわれる日本人家屋。

\*米軍「第2海兵師団」の白い記念碑があります。アメリカ軍は、毎年サイパンにおいても戦死者を英雄として、慰霊祭を取り行つてゐるそうです。

\* 独立歩兵第316大隊(歩兵第14連隊 江藤 進大尉・岐阜連隊) 人員610人 戰死者585人 復員23名

ます。

戦死者の多さに、絶句してしまい

チャラン、カノアビーチ

「チャラン」は道、「カノア」はカヌーの意味。リーフが此処だけきていて、外海への水路になつていて、とから「カヌーの道」チャランカノアと呼ばれているそうです。



## アメリカ軍上陸海岸 チャランカノアビーチ



### 独立歩兵第14連隊慰靈碑



## 大型台風上陸被害後 米軍上陸海岸 カノアホテル裏手

い観光客も出たとのこと。  
60年前の大型台風以上の大被害が出た模様。死者が出なかつたのが本当によかつた。

目前の海原は碧くおだやかですが8月の大型台風上陸後の爪痕で、いつものまばゆいばかりに白く輝く砂浜は汚れ、根こそぎになつた椰子などあちこち残つています。観光のメインの場所以外は、島中まだまだ片付けられていない現状でした。

「ソウテロア」上陸す。

8月2日に大型台風が上陸し、サイパンは電柱が800本以上なぎたおされ、島民の多くの家の屋根も飛び、大型ホテルも被害が出る。

主要道路は倒れた電柱や倒木が散乱。電気、水道、電話もストップ。サイパン国際飛行場も数日閉鎖にな

「デロア」とはミクロネシア地域の伝説上の首長の名前です。

被害の様子を伝える手紙が届きはじめて異常事態が起こつたことがわから

りました

グアム、パラオ、ヤップ島からヘルプがあり20%位復旧しています」と書かれていました。

\*アメリカ、グ

アムの援助隊が  
早急にかけつけ

て来る訳とは。

## アカヒキの自治 、リアナ諸島

alh  
of  
the

na Islands ) う  
うべす。

ノ力合衆國の準州  
島の面積三分の一

この時期は日本でも、次々と大型台風が上陸し大きな被害が出ていて、サイパンはニュースに出ませんでし

何度国際電話しても「This phone is out of order」とのアナウスが。ヨネコちゃんからの9月23日付、電話不通と

Northern Mariana Islands )  
○グアム島はアメリカ合衆国の準州  
となっており、島の面積三分の一  
含まれて いるからです。

サイパン非常事態に駆けつけた三島は、いずれもアメリカの軍事基地、軍隊と関係あるという共通事情があるのです。

○ヤップ島はミクロネシア連邦4州がアメリカ軍用地で有事に緊急展開できる戦略要地となっています。

の中のヤツブ州にある。

ミクロネシア連邦は自由連合盟約国として国連にも加盟しているが国防と安全保障をアメリカに委託

している。

○ハラオは1994年よりアメリカ  
信託統治下より自由連合盟約国と  
して独立した。

外交権限の一部はアメリカが保持し、安全保障はアメリカが担つていい。パラオは自国軍隊を持たないかわりに、アメリカ軍人として採用され入隊している者がいる。



北マリアナ諸島(自治政府 全14島)  
とCommonwealth

- バハロス島
- マウグ島
- アスンシオン島
- アグリハン島
- パガン島
- アラマガン島
- ググアン島
- サリガニ島
- アナタハン島
- メディニラ島
- サイパン島
- テニアン島
- アグイハン島
- ロタ島

北マリアナ諸島 略図

小笠原諸島

- 北硫黄島
- 破黃島
- 南硫黃島

● バハロス島

フィリピン海

Phillipin  
sea  
北  
マ  
リ  
ア  
ナ  
諸  
島

- マウグ島
- アスンシオン島
- アグリハン島
- パガン島
- アラマガン島
- ググアン島
- サリガニ島
- アナタハン島
- メディニラ島
- サイパン島
- テニアン島
- アグイハン島
- ロタ島

北太平洋

North  
Pacific  
Ocean

ミクロネシア ● グアム島  
Micronesia ● マップ島

● パラオ諸島

● 北マリアナ14諸島は  
アメリカ主権下で、内政は自治政  
府が取り仕切るが、国防、外交権は  
アメリカが有する。  
北マリアナ諸島自治政府市民は、  
アメリカの市民権を持つ。  
アメリカが軍事施設の建設、利用  
の計画があれば認める。  
アメリカは軍事施設の借地代と經  
済援助をすることで締結されたのが  
コモンウェルズ(自治権)である。

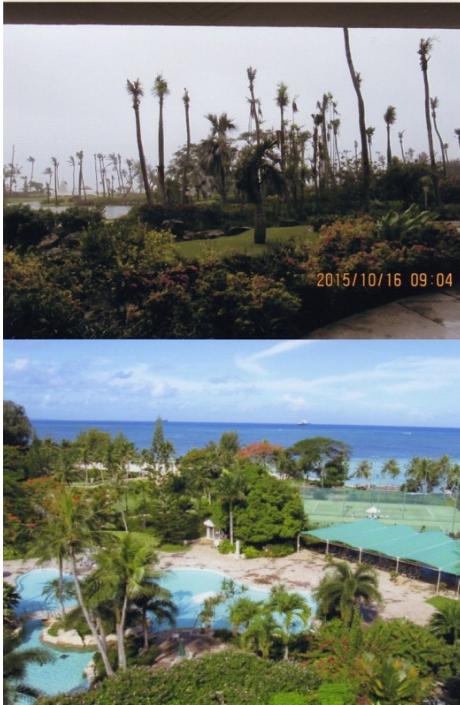
※現在、人が住んでいる島は、  
サイパン・テニアン・ロタの三島。  
他は無人島(収穫物のある季節に  
短期間人が入る島もあった。)

2015年10月16日金曜日

Tropical Storm Champi

滞在中熱帯性暴風雨、嵐に遭遇する。

熱帯性ストーム、チャンピーはマリアナ諸島を通過しつつ、力を強め Level nine になりサイパン、ティアンに押し寄せた。(Saipan Tribune)



上:去る8月2日の台風上陸で景観が一変した眺め。  
下:ホテル客室バルコニーからの以前の眺望

美しいハ  
風で、南洋の楽園そのものの、  
すでに8月の台風を襲います。

ドツとい  
う地鳴りと共に海辺のホテルを襲います。

イアットリージョンシーグの庭園は、  
いつも大勢で出迎えてくれる海鳥たちの巣も吹き飛んでしまったのでしょうか。

私たちの到着日と帰国の朝、荒れた庭園に飛んできてくれた2羽の白

パンを襲つた大型台風の被害が残る南洋の小島に、再び台風が上陸。10月16日、朝から不穏な天候、いつものように停泊していたアメリカ軍の集積船は安全圏に避難したのか一隻も居なくなる。

次第に荒れだし、夜から明け方まで猛烈な風雨、ドツドツ、ドツド

去る8月2日 60年ぶりに、サイパンを襲つた大型台風の被害が残る南洋の小島に、再び台風が上陸。10月16日、朝から不穏な天候、いつものように停泊していたアメリカ軍の集積船は安全圏に避難したのか一隻も居なくなる。



2度目の台風一過10月17日  
手入れの行きとどいた大木も折れてしまいました。

い姿を見ただけでした。

## 復活の日まで

旅人の木ラベナラも、南国の空にそよいでいた椰子の木々もみんな葉をちぎられ枝を折られて、焼け野原に林立する杭のようになってしまいました。



暴風でもぎとられた椰子の葉の一枝。思ったより重くて、持ち上げられませんでした。こんな重い葉がボキボキ折れて吹き飛んだなんて！



ハイアット敷地内の旧日本軍トーチカに行ってみました。トーチカは以前から、マリンスポーツクラブの倉庫として「現役」なのです。が今朝は濡れた用具類が外で干されていました。

ハイビスカス、ブーゲンビリア、ブルメリアなどの花々は吹き飛ばされ、葉は塩害で茶色くなりちぢれてしましました。ドンニー野戦病院跡や地獄谷の最後の司令部跡、井手次郎海軍軍医のいらした洞窟跡などの奥地戦跡はどうなっているのでしょうか。

現地の人はとにかく明るい！ “ガウンターの屋根が無事でヨカッタ” と感謝の言葉。セッセと吹き寄せた砂の山を片づけています。マリンで働く日本のおじょうさんまで負けず明るい！ コロコロ笑いながら重労働している……やっぱり南洋の島だなあ。



自然と共に生きている南洋の島は、人も草木も大らかでめげない。

家々の屋根が直り、電気、水道、

電話が復旧し島民の幸せな日常生活

が戻りますように。

雨でうるおつた大地から南国の太陽を浴びた植物は再び芽吹き、花々を開花させるでしょう。6月が来ればさきとサイパン桜の真紅の花が島を彩ってくれるでしょう。

もう一度南国の楽園に復活したサ

イパンに会いたいな。

もう一度英靈方や戦没犠牲者の声

こだまする島を訪ねたい……。

国際線に乗って、海を渡つてまだ

行けるだらうか？

私たちは年を取つてしまつたけれど

じ。

アキオ ソダさん

台風から2カ月以上、ご自宅はま

だ停電中とのことでした。

ソダさんが、熱い思い、祈りを込

### 《参考引用文献》

玉碎と自決の島を歩く 小西 誠

社会批評社

北マリアナ諸島 ミクロネシア連邦

グアム ヤンプ島 パラオ

Wikipedia

歩兵第135連隊の思い出

歩兵 第135連隊史

### 猿年の徒然の記

秋元光博

\*「生還！バンザイ突撃に参戦した軍医中尉」のエピローグは春季号にさせていただきました。

めて案内してくださる南部戦跡も、暴風雨の影響で一層劣化が進んで胸が痛みます。

### 《協力》

ミセスヨネコバルシナス

ヨネコさんの家も大型台風サイパン

上陸による大きな被害にあわれ、

大変、苦労されていました。

凄まじい当夜の様子、台風通過後の

街の様子を語つていただきました。

アキオ ソダさん

台風から2カ月以上、ご自宅はまだ停電中とのことでした。

ソダさんが、熱い思い、祈りを込

努力に欠いたのではないか。言い換えれば、川柳界は実作者の多いわり

に、評論家が少なく、学問的大係化も見られていない。川柳に関する論説や識見を有する指導者の少ないと、文学的位置の誤解につながつていつたのではないか。

現況をみると、川柳の人口の増加と、マスコミも川柳を取り上げるようになつたこととが相まって、まさに川柳の開花を思わせる盛況ぶりである。

しかしながら、川柳に対する一般社会の認識には、まだまだ誤解や偏見が多く見受けられるようだ。川柳人口の老齢化という問題もあるが、わが国の平均寿命は、過去最高を更新して、女性は 85 歳を超え、男性は 78 歳をクリアした。高齢者の活躍に期待する点も多々あるのではないだろうか。

加齢または老化とは、樹木に例えれば年輪を重ねることであろう。しかしながら一般に老いという言葉か

らはネガティブな印象が強く、生産性のイメージが稀薄なようである。曆年齢よりも若々しく活発に活動する方もおられるが少数派だ。

若さを持ち続け、高齢になつても積極的に仕事をこなす人の多い職業は、芸術家だとよくよく言われる。芸術家は、必ず何かのビジョンを持ち、いつも創作し続けているからである。

う若く生きる秘訣は、若く生きている人に出会うこと。生涯を若く生き抜いた先人に、仕事や作品を通して出会う努力を怠らないことだと思う。

人は、老いてから病気になると、体力だけではなく、精神力も急速に減退する。心身を積極的に使うことよりも、用心のために過度の安静に傾き、それがかえつて治癒を遷延させる可能性が大である。老木の根っこから、活き活きした緑の若木が顔を覗かせるように、老いの体に内在する生命力と、修復力、そして今まで培ってきた年輪の厚みを、是非とも後進のために、社会に還元してほしい。

川柳における約束ことは 17 音字だけで、紙切れと鉛筆さえあれば、誰にでも出来るという啓蒙の仕方に落とし穴があるようだ。川柳組市易しという錯覚である。

そういう観点からすると、一般の人の目にもつとも触れるのはマスコミ川柳であり、時事川柳や世相川柳の投句こそ蔑ろに出来ないと思われる。

現代川柳はレトリックを駆使した句が多くなつてているようだ。比喩は心象風景の点描であり、新しい現実は新しい比喩でしか表せないのであるが、比喩を用いるときは、よほど心しないと作者の思いが読み手に伝わらない危険性もあると思う。人間を詠う川柳が、そのイメージによって、独特的の時間的空間を構成するよ

うになつてきた結果、隱喩的表現は、往々にして句が難解となり、鑑賞者の読解力が要求されることとなる。

17音字の中に思いの丈を押し込め、それに韻律を持たせる努力の中にこそ、川柳作句の魅力が存在するのであって、その過程に比喩の選択という、難しい作業も入つてくるのだと考えたい。

短詩文芸と散文の違いは、大雑把にいって韻律があるかないかの違いだと思う。川柳は17音字の詩形で、他の短詩型文芸の後塵を拝しながらも、その命脈を今日まで保つことが出来たのは、昔から言わってきた三要素のうちのひとつ「穿ち」に負うところが大きかつたと思われている。

現代川柳は、これまでの三要素によつて分類できるようなものではなくなつた。本音を吐かず、没個性の画一化された句ではなく、作者の主

観的世界を描く叙情の一行詩としての傾向が強まつてきているようだ。現代川柳は心象風景をいかに言霊に移入するかである。

一般的に川柳は歌俳に比べて、より卑近・通俗である。川柳の批判精神とか風刺精神が、別情性を好む日本精神風土に受け入れられなかつたということが考えられる。

また川柳は歌俳とは異なつたものの見方、考え方、対象の捉えかたをする文芸だからであろう。人間諷詠の川柳の目は、人間の生き様や想い、雜多な社会生活のいろいろな断面にも踏み込んでいかざるを得ない。

したがつて見かけの卑近さ・通俗性の奥に潜んでいる事実を読み取る努力をしなければならない。川柳とは透徹した目で、自分を含めた人間を見つける一行詩であり、口語という平明で俗っぽい言葉を用いて、文明批評を展開することではなかろう

か。

翻つて現況を見るに、ペーソスの氾濫と批判精神の希薄を指摘する識者もおられる。時事川柳や世相川柳に対する我々の姿勢が、川柳の啓蒙に大きくかかわっていることを忘れてはならない。

川柳は文明批評の文学とも言われるが、政治はもとより世相にも鋭敏

に反応し、矛盾や不条理をつまし出してこそ存在価値があるものと思う。柳俳の接近が指摘されており、両者の区別が判然としないような作品に遭遇することが間々ある。しかし、川柳という文芸が、他の短詩形文芸の中に、埋没されることなく、その比喩も今日まで保つことができたのは何であろうか。

いろいろの分野における創作とは、五感を通して得た象風景を具体的に表現することであろう。そして、作者の感動が鑑賞者の胸中で再生産さ

れるものでなければならぬ。17音字で思いの丈を表現する川柳とて例外ではあり得ない。

人間諷詠の川柳には、季題とか切字の約束はなく、あくまで自由奔放に、平言俗語に親しみ、人生の機敏を穿つところに真骨頂がある。眞実ほど強いものはないが、事実だけの描写で終われば報告川柳の謗りを受けるであろう。

虚実の中から人間性を探し出す努力こそ求められる現代川柳は作者の主観的世界を吐露する叙情の一行詩としての傾向が強まっており、文明批評を根底に置いた人間性の探求こそが、川柳の存在価値かとも思われる。そういう点からも、アレゴリ（譬喩）やメタファー（暗喩）も念頭に置いて作品に対峙する必要があるうと思われる。

短詞文芸の中で、川柳がいまだ他

のジャンルより低次元のものと誤解されている遠因は、川柳史のほぼ半期に相当する狂句百年がネガティブに作用していることは否定できない。

また、古川柳では叙事が主流で、文芸にとつて最も大切な創造性に乏しかつたことと、作品に作者名を冠しなかつた事も後進性を問われる原因の一つであつたろうと思料される。

古川柳と現代川柳の大きな相違点は、前者は客観的描写、即ち叙事が主流をなしていたのに対し、現代川柳では、個の目覚めによる心象・情感の移入が前面に出て、読者にとっての共感度を一様に論ぜられない点であろう。

一つの発見を17音字にまとめあげるためには、的確な比喩なくしては表現できないと思う。その際の言葉選びが独りよがりになると伝達力の低下となり、難解句の謗りを受けることになるのではないか。

心象作家といわれる人々の句の中には、理解に苦しむ借辞がよく見受けられる川柳は言葉遊びや謎解きでなく、17音字に託した想いが第三者に理解されるものでなければならぬ。従つて、大多数の人の共感が得られるような言葉遊びに心を砕かねばならない。また、17音字という枠組みの中で韻律をもたせる努力も当然と思われる。

良い句とは、作者と同じ地平で鑑賞できることが望ましい。そのためには、「読書二到」「読書百遍義自ずから見る」の譬えの如く、多くの作品を読むことに尽きるのではないか。

「山路を登りながら、こう考えた。智に働く角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかくこの世は住みにくい。住みにくさが高じると、安いところへ引き越したくなる。どこへ越しても住み

にくいと悟った時、詩が生まれて、  
画ができる」

これは、漱石の「草枕」の冒頭の一節であるが、人の世はどこへ行つても住みやすいところなどないから、ストレスを発散させ、精神の平安を得るための詩や絵の趣味を勧めていいのであろう。

最後にサミュエル・ウルマンの詩（「青春」）を添えて筆を擱く。

青春とは人生のある期間ではなく  
心の持ち方を言う  
バラの面差し、紅の唇  
しなやかな手足ではなく  
たくましい意志、豊かな想像力、  
燃える情熱を指す  
青春とは人生の深い泉の  
清新さをいう。  
青春とは臆病をのける勇気  
易きにつく気持ちを振り捨てる  
冒険心を意味する

時には二十歳の青春よりも  
六十歳の人に青春はある。

年を重ねるだけでは人は老いない  
理想を失う時はじめて老いる  
歳月は皮膚にしわを増すが

情熱を失えば心はしほむ  
悲嘆の構図にさらされる時

二十歳であろうとも人は老いる  
頭を高くあげ  
希望の波をとらえているかぎり

人は青春に終わる  
人は青春に終わる

### 【川柳】

党名が泣いている維新泥試合  
安保法廃止への足が揃わない  
根を枯らすまいとみんなで反戦歌  
日向ぼこ体のたがも外れそう  
アルバイト出会いもあれば別れあり  
怖ず怖ずと平均寿命越えてゆく  
人波に高く濃ふ熊手かな



# 2016年(平成28年)謹賀新年

<p>日本医師会 会長 横倉義武 洋楽部部長 松木耀子</p> <p>日本医家芸術クラブ副委員長 初芝澄雄</p>	<p>日本薬剤師会 会長 山本信夫 新春を寿ぎ、同好者の入会を歓迎します</p> <p>公益社団法人東京都医師会 会長 尾崎治夫 写真部部長 竹腰昌明</p> <p>日本医家芸術クラブ委員長 太田 怜 日本医家芸術クラブ再生委員 美術部副部長 白矢勝一</p>	<p>日本医家芸術クラブ副委員長 よきエンをエテうきことをサルの年 日本医家芸術クラブ再生委員 美術部副部長 鈴木啓之 描く楽しさ 見る楽しさ 秋に絵画展を開きます</p>	<p>日本医家芸術クラブ副委員長 日本医家芸術クラブ再生委員 文芸部 安井廣迪</p>
---	--	--	---

# 2016年(平成28年)謹賀新年

日本医家芸術クラブ再生委員

美術部 津谷 喜一郎

またよわいを重ねました  
本年もよろしくお願ひします

美術部 飯田 収

新春をお慶び申し上げます

式場 隆史

医療法人 式場病院

本年、富山県水墨美術館(28・6・25)と碧南市藤井達吉現代美術館(28・8・20)にて「鬼才——河鍋暁斎展 幕末と明治を生きた絵師」を開催予定です。

三猿はダメ、良く見て、聞いて、叫ぼう 新しい年こそ!

邦楽部・芸術部 佐藤 玄祥(博)  
中野区鷺宮四一四三一―六 三洋指圧所長 指圧師・薬剤師

謹んで新春のお慶びを申し上げます

文芸部 出来 尚史

迎新春人興財旺 賀佳節富貴吉祥

文芸部 豊泉清

〒三七〇一〇八五一 群馬県高崎市上中居町四一六

新年おめでとうございます 書道部の活動がないのは残念です

書道部 二宮文乃

〒四一三一〇〇一五 熱海市中央町四一七

文芸部 河鍋楠美

新春をお慶び申し上げます

文芸(俳句)部 福富清子

新春をお慶び申し上げます

蕨市 蕨眼科  
公益財団法人河鍋暁斎記念美術館

東京都 品川区

# 2016年(平成28年)謹賀新年

謹賀新年

文芸部 藤倉一郎

〒三六四-〇〇〇一 北本市富内一-一二二二

迎春 本年もよろしくお願ひいたします

サイパン戦跡めぐり

文芸部 美濃部 欣平

美濃部 幸恵

鎌倉市極楽寺

文芸部 吉元昭治

吉元医院

日本医家芸術クラブ事務局

〒一八七-〇〇四一 東京都小平市美園町一-四-十二

電話 ○四一-一三四四一八〇五六  
FAX ○四一-一三四四一〇八七九

※順不同にて掲載

多數の年賀広告のご協力ありがとうございました。



会員の皆様のお役に立てる様努めます。ご指導ください。

# 医芸俳壇



兵庫 廣辻 逸郎

御朱印の白衣連れ立ち照紅葉  
影深し秋のこぼれ日地巻座す  
秋深し法灯絶えず人絶えず  
車ならと大南瓜を選びくれ  
厚き手やもぎ取りくれし秋なすび

新潟 中村雄彦

打ち捨てしぴルフバッゲに秋日射す  
日傘さし腰曲げ歩む帰り道

夏山の青き山並雲かかる

夏服にずれたバッグで登校す  
重たげなカバンを背にして夏の朝

里山に灯の洩れている夜なべかな  
もてなしと言ふも草の飯なりし  
逢えばみな山の顔して草狩  
足湯して仰ぐ岩木嶺鳥渡る  
銘銘に押し黙りゐる草狩

青森 秋元光博

静岡 岩本漂人

東京 福神規子

アオサギの空の濁声一羽となる  
ひつら田は管理地となりケリ鳴けり  
サツカーノのゴールに一羽寒ガラス  
アオサギとダイサギ飛んで右左  
雲間よりマガンとなつて降りてくる

東京 福富清子

残る虫何かこの世に忘れもの  
名月をさわたる雲に息合ひぬ  
顔を口に歌ふ園児や柘榴熟る  
湯豆腐や薬味にこだはる嫁姑  
誕生日あつけなく過ぎ秋深む



# 医芸柳壇



青森 秋元光博

〈生甲斐〉

長生きの談笑響く過疎のお湯  
苦虫を噛み潰せない総入れ歯  
長生きはめでたいのつて孫が言う  
生甲斐を背負つて登る秋日和  
核の傘さして隣の核を責め

群馬 豊泉 清

健康法一切無視して健康体  
一億総いつかは来るぞ動員が  
海外で戦つていいスポーツは  
天高く二言目には瘦せたいな  
ダイエット口にしながら箸進み

## 医芸歌壇



晩秋

茨城 羽生 藤伍

散歩路の老人ホームの柿の実は撓たらわに成りて朝日に映える  
わが庭の緋鯉みごもり綾の腹紅き模様を水面にみせる

水戸文化センターに孫ら選ばれてコーラスの窓に四もとの銀杏  
東京のホテルルームで同窓会孫もつ医師等7人つどい

水やれば二つの鉢に垂直と水平に伸びる紅き花弁

父母姉のかげ

青森 秋元光博

むらくもに初日はみえずあしたには光の見ゆるや國のゆくえも

立ち止まりしつかり眺む釜臥山の傍へと燃ゆる夕やけ空に

胸ふかく思いをひとつ煙にこぼして今日の風すがし  
生かされて生きている生をどう生きるつれづれに思う臥す正月に  
風の匂ひ水の匂ひをかぎて佇つ里の木橋に母のかげあり

壇尻

茨城 羽生 藤伍

疾走す山車の屋根にて若者が躍る樂車だいしゃ大阪の街

街角をスピードで曲る山車の屋根団扇両手に若者踊る

大阪の岸和田町に人溢れ數十台の山車団み行く

御落胤と云わる名僧一休の古寺に詣でて京都より帰る

窓外を地球が疾走する如し新幹線の秋の景色は

門 東京 小松安彦

宮参り

東京 横田英夫

青春はいつ終はりしか壯年はいつまで続く冬の穂高よ  
校門の前に立ちをり五十年前の中学入試を思ふ

節分の席より離れ公園に「鬼は外」の声独り聞きをり  
水仙のあはひに座りフローラは幼を抱き仰ぐ白梅

山頂を二回踏みたる常念のはるか彼方に遠く去り行く

みどり児のかかる試合に出づること夢には非ず見守りて行かん

詩

青森

秋元光博

東京を

一生歩みつけた

年が改まり  
父母はいま

雪道のどのあたりを歩き始めたろう  
そして姉は

姉  
その魂

父母と姉の眼は

篤信の人の眼

弟は頑固に忠実

そうして長く短いそれぞれの生涯は

どこまでも家系のもの

深い夜の悲しみ

百合の紅いろが底光しつつ闇の中から  
響いてくるような色調……

ルオーが画布に遺した

冬の郊外

早春の雪景色……ゴツホの手が生んだ  
アルルの郊外

葱の白さ青さが鉛筆の先端から溶け出したような

遺影の父母姉とひとりむきあいながら  
ぼくは耳をかたむける

雪明りの道を踏む

ルオーの

ゴツホの

遠く　たゆみない足音に

感竹管演奏（竹管の演奏に感ず）

青森 秋元光博

高朋雅客満空閣

法雨蕭然鳥髪優

三曲好調無限趣

応知竹管遠牢愁

高朋雅客は岑櫻に満ち

法雨は蕭然として鳥髪は優かなり

三曲は好調にして無限の趣きあり

応に知るべし竹管は牢愁を遠ざくを

永年の修練に支えられた演奏、法雨の心技は寂然不動。緩急自在、しつとりとした音色、微妙な韻律を醸し出して客席を魅了し、伴奏者としての琴と三弦も適意よろしく、三位一体となつて幽玄の境地を会場に伝えてくれる。これからも日本古来の雅の雰囲気に入り、心の優しさに素直に感動し、称賛したいと思つてゐる。

次号（春季号）締め切り

平成28年2月29日（月）

次々号（夏季号）締め切り

平成28年5月10日（火）

毎号、会員のみなさまのご協力、誠にありがとうございます。

今号（冬季号）の発行が予定より遅くなつてしまつたので、春季号の締め切りを少し延ばしました。ご投稿お待ちしております。

今回も一季号分の原稿を募集させていただきます。掲載季号の指定がございましたら、その旨も原稿送付時にお知らせください。何も記載がなければ原稿到着時点での一番早い季号での掲載となります。

引き続き、会員の皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

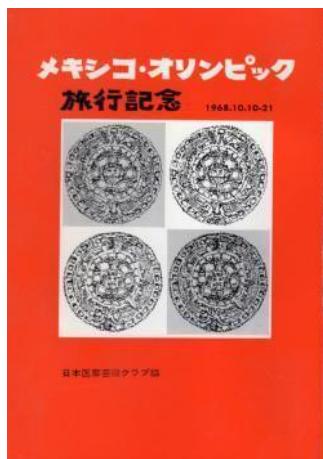
※一部500円にて機関誌の追加購読も承っています。ご希望の方は事務局までお知らせください。

## アンコール掲載

【メキシコ・オリンピック

### 旅行記念④

日本医家芸術クラブ 編



リンピックだ。

当時の日本医家芸術クラブには

『旅行部』が活動していたらしく、  
その旅行部がメキシコへオリンピッ

クを見に行つたときの旅行記が発行

されている。25家庭33名の方がこ

のオリンピック旅行に参加されてい  
る。2名の添乗員が付き添い13泊

15日で、サンフランシスコ、サンア  
トニオ、メキシコシティ、クエルナ  
バカ、アカブルコ、ロスアンゼルス、  
ホノルルと7都市を旅している。

旅行された方のうち、11名の方が  
この旅行記にご投稿されているので、  
その旅行記を順次ご紹介していくた  
い。尚、本文は原文のまま、掲載写

真は印刷されたものをスキャンした  
ものなので、画質の悪さはご容赦願  
いたい。

一九六八（昭和43）年十月十一日、  
第十九回メキシコオリンピックが開  
幕した。東京オリンピックが一九六  
四（昭和39）年十月に第十八回とし  
て開催したので、東京の次の夏の才



【旅行日程表】  
一九六八（昭和43）年10月

### 10日 東京発

サンフランシスコ着

東京国際空港より大型ジェット  
機にて出発、一路サンフランシ  
スコへ

到着後、ホテルにて休息

午後・サンフランシスコ見学、  
マーケット通り、官庁街、ツイ  
ンピークス、金門公園、金門橋、  
漁夫の波止場、チャイナタウン

### 11日 サンフランシスコ発

サンアントニオ着

メキシコシティ着

サンフランシスコよりメキシコ  
シティへ、途中サンアントニオ

市見学

### 12日 メキシコシティ

第19回メキシコオリンピック

開会式に出席（午後一時～五時）

### 13日 メキシコシティ

午前…メキシコ市見学、チャヤプルテペック公園、ゾカラ広場、中央政庁、大寺院、国立人類学博物館等

### 14日 学習メキシコシティ

午前…ティエイワカンの太陽の神殿、ピラミッド見学  
午後…オリンピック陸上競技見

午後…オリンピック陸上競技見

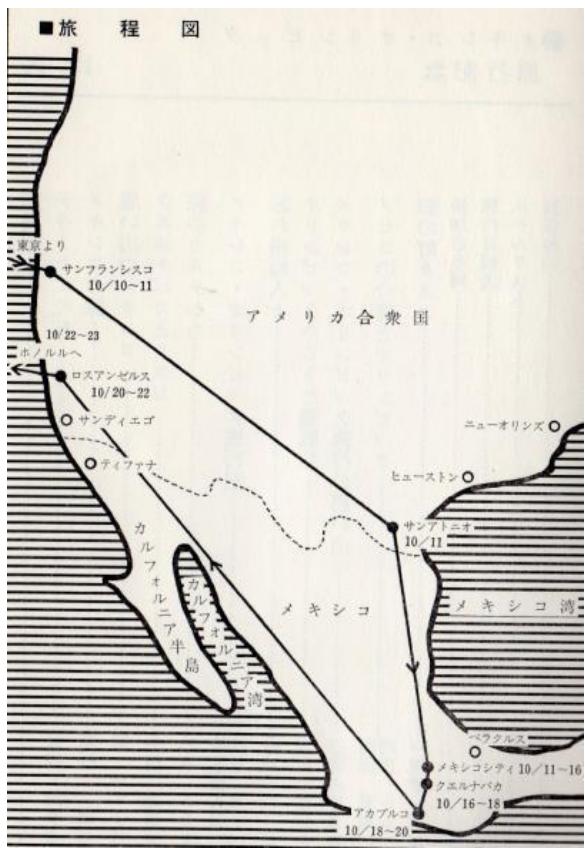
### 15日 学習メキシコシティ

午前…オリンピックバレーボール見学

午後…オリンピック陸上競技見

### 16日 メキシコシティ発 クエルナバカ着

メキシコシティより、クエルナバカ経由にてアカブルコへの3



日間のバス旅行

### 17日 クエルナバカ

クエルナバカ見学、夜はメキシコ政府主催のオリンピックパーティに出席

### 18日 クエルナバカ発

アカブルコ着

クエルナバカよりアカブルコへボートにてアカブルコ湾巡航、夜はラ・ケブラダの崖上からのダイビングショウ見学

### 19日 アカブルコ

20日 アカブルコ発

ロスアンゼルス着

オリンピックヨットレースを見学、午後の便にてロスアンゼルスへ向かう

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

21日 ロスアンゼルス

ロスアンゼルス見学、ハリウッド、ビーバリーヒルファマーズ、マーケット、チャイニーズ劇場、オルベラ街等

金成 桂一

序章

川端流に——長いタラップを降りると、其所はシスコの街だった——とでも書き出せばとも思ったが、文才の無い私には到底無理なはなし。

無条件に楽しい「旅行」——について今更のようにしかつめらしく定義づけよう、などと野暮な事も考えない。

第一章 ミスター・ポール・ミッチャエル

既に御存知、本場のシスコのヒツピー通りで知り合った典型的なヒツピー少年。

22日 ロスアンゼルス発

ホノルル着

ホノルル着後、オアフ島見学、ワイキキビーチ、ダイヤモンドヘッド、ハワイ大学、パンチボールの丘、真珠湾、ヌアヌパリ等

忘れ得ぬ人々

国木田独歩に非ずとも、私にも矢張り、知らぬ他国で偶然に袖をふれ合わせた何人かの人にまつわる想い出がある。

私の書かんとするのは忘れ得べからざる人——例えばドクターフナバとか、ドクターノグチとか——ではなくて、只何となく、そのくせ、どうしても忘れ得ぬ人についての一寸した連想に過ぎないのだが……。

23日 ホノルル発

パンアメリカン大型ジェット機にて一路東京へ

陳腐だが——紬ふれ合うも他生の縁。

東京国際空港着後解散

24日 東京着

シエラトン・ホテルに荷物を置いて、早々にとび乗った観光バスにゆ

られて、慣れぬジェット機の長旅の退屈さと倦怠感を堪えながら小休止の為に停車したバスの直ぐ側で、私はアメリカでのスケッチブックの第一頁を書きはじめようとしていた。

「私は腹が空いている。すまんが

クワラー（百円）（二十五セント）預けませんか？」といきなり私に話しかけて来た蓬髪<sup>ぼうぱつ</sup>毅<sup>ひき</sup>だらけの乞食のような男。

私は黙つて二十五セントをつまみ出して、手渡してやつた。サンキューも言わずに行き過ぎようとしたので「すまんが、君の姿をスケッチさせてくれないか？」と言ひながら、もう二十五セント手渡してやつたら、あつさりOK。本場のヒッピー族の

考え方やその生態のいささかなりとも知り得る絶好の機会と思ったので、彼をスケッチする振りをしながら、

数少ない私の脳中のボキヤブラリーを絞りながら、私は一生懸命彼と話をした。

「日本を君はどう思うか？」――「美しい、国ということは聞いて知つてている。」――「何故にそのような身なりをして無為に日々を過しているのか？」――「世の中のすべての偽善に飽き飽きして人間の本性にかえりたいのだ。」――もつともつと種々の問答をかわしたのだが、省略する。

最後に、私はゆつくりと発音しながら「ところでベトナム戦争は？」

と聞いたら――

「私も日本人旅行者として本場のヒッピーの君と知り合いになつた事を大変に貴重な事と思うので、日本へ

帰つたらクリスマスカードの一枚なりと送りたいと思うのだが、名前と住所を知らせよ」と半分も言い終らないうちに「クリスマス？そんなもの一体なになんの？ ナンセンスだよ。」と言う。

グッドバイを言う前に差し出した私の手を握りながら――「僕の名前？ マイネーム・イズ・ポール・ミッチェル。字なんてないよ。」と吐き捨てるように言うとぐるりと踵をか

えして、肩をすばめ、前二三みの、  
のめるような歩き振りで、ズック靴  
を引きずりながら、霧深いシスコの  
街角に消えて行つてしまつた。

ポール・ミッチャエル——それは、  
エトランジエの私にとって、謂わば、  
シスコ路上のローリングストーンに  
も比すべき、ゆきずりの一少年にし  
かすぎないのだが、其のブロンンドの  
房々と肩まで垂れた美しい髪の毛と、  
澄んだ透き通るような青い眼と——  
そして、それ等に不思議にマッチし  
たカツコいいボロ服とが、何がなし  
に忘れ得ないのである。

極度に発達しすぎた機械文明への  
叛逆なのか、或は又、純粹な気持か  
らの、比の人間世界の矛盾と相剋へ

の若者のせめてものレジスタンスな  
のか、いざれにしても同じ年頃の子  
供を持つてゐる父親としての私にと

つては、どのように、焦点をしぶつ  
て考へてよいのか迷うだけだつた。

さもあらばあれ、私は十数年来兼  
ねてから何時の日にか海外旅行のチ

ヤンスもある事を予想して、一日も  
かかさず英字新聞を読み続けて来た  
日頃練磨（？）のとはお恥しいが、  
私のブーアーイングリッシュを最初に  
理解してくれたアメリカ人という意  
味でも彼は忘れ得ないのかも知れな  
い。

そして、これからも霧の深い日な  
どには、フット何処からともなくあ  
のポール・ミッチャエルが忽然と現わ

れて来るような錯覚に悩まされる事  
だらうと思うのである。

## 第二章 ミス・レーン・レーリー

「花の街」——クエルナバカで知り  
合つた、セニヨリータ、と言つて  
も、七十歳の老女。

沛然たるスコール一過のあと、  
さわやかな「ヴィラ・インターナシ  
ヨナル」の内庭の芝生は眼に沁みる  
ほど青さと、まるで高価なカーペ  
ットの肌ざわりのような感触で、ス  
リッパから半分もはみ出している私  
の素足を擦ぐるかのようだつた。

オリンピックで、そわそわと沸き  
立つ華かなメヒコシティーをあとにし  
てアカプルコへのバス旅行を開始し

てからの延々たる長旅——。

然も、耳がキンキンするほどの高いメキシコ山脈を横断する為に、落漠たる単調なイエローオーカーの崖肌と、つかれたグリーンのサボテンの原野と、飽き飽きするほどに繁茂した椰子林とビンロー樹の中の一本道をうんざりするほどゆられ続けて、やつと辿り着いたあとだけに余計芝生すらが、しつとりと嬉しく感ぜられたのかも知れない。

私はホテル到着と同時に軽い夕食をすませて、内庭にあるプールサイドのベンチに腰をおろして、芝生の青さとクリーム色の壁をもつた円形のホテルの部屋並みと、それに丁々として聳える椰子の大木のコントラ

ストに、画情を誘われるままに早速スケッチブックを取り出して筆を走らせはじめた。いざ書き出してみると、眼に見たほどにはまとまりにくいコンポジションなので、いささかいや気がさして、一寸一服と煙草を口に喰わえてフーット一と息入れた。その時、突然私の背後から綺麗な透き通るような女の声で、「貴方は日本のかど医者か? それとも画家か?」と不意に声をかけられた。

私は突然に後を振り向き乍ら、出まかせに「ヤー・アイム・ドクター・アンド・ペインター・ギース」——医者でもあるし、絵書きでもある——という意味の積りで返事をしたわけだつたが、果して、こんな会話が

正しいのかどうかあやしいものだが、いずれにせよミス・レーンとの交際の第一景はこんな具合だつた。

「今日の夕方、日本のお医者方が来るという事はメイドのカルメンから聞いていたので、私は心待ちしていたのだ」と言う。細い銀縁の眼鏡の奥に柔和な細い瞳に笑みをたたえて彼女はしゃべる。然し、彼女は両手で、日本では医者の私ですら、初めて見るような三つ又の、しかも滑車のついた杖をついて立つてゐる。

私は早途斜めに構えて足を組んでふんぞり返つて掛けていたベンチの半分を慌てて空けて、「ブリーズ・ティーク・ヨア・シート」と言つたら「残念乍ら、私は誰かの手を借りないと

足と腰が悪くてベンチに腰を下ろせないのだ」というので、「何故か」と

聞いたら、「私は慢性関節ロイマチスを保養する為に比所へ来ているのだ」と言う。

私が抱きかかえるようにして、座わらせてやつたほんの瞬間だったが、苦痛を堪える表情をしたが、座り終つた途端に「サンキュー」とほほ笑みかけて来た。

「何故貴女は日本人の私に、そのようくに、関心を持ったのか?」と不躾とは思つたが、聞いてみた。

夜の七時半というのに、南国メキシコの夕空は、やつとオレンジ色に色づいて来て、遠い雲の中にしまつてある記憶を読みとるような限差し

で、眼を細めて、ゆっくりと、私に向つて語りはじめた。

「私は一九三六年、ジエズスの使徒として(つまり宣教師としてか?)

日本のナラに行った。私はそれまで、日本についての充分な認識も知識も何もなかつたが、船旅の間に、日本に関する出来だけ多くの書物を読んだ。それに、日本郵船のボースンから直接話を聞いたりして日本を理解しようと思つた。ナラは本当に美しい街だった。そして、私の周りの日本の人々もすべて私を満足させるに

充分なだけ親切だった。然し、何んとしても、残念な事に、一九三七年上海でアメリカと日本とがアフエア（上海事変?）を起したのを契機に

して私は止むなく命令で、ワシントンの自宅へ帰つて来てしまつたのだ。

ナラも、キヨートも、トーキョーも、そしてホッカイドーも、すべては私の美しい心の想い出として私は今まで充分に覚えているのだ。日米戦を知つた時、私は驚いた。——そして、束の間の知り合いとは言いながら、

あんなに善良な日本の人々がパールハーバーをだまし撃ちしたのだなどという事も、考へてもみたくなかったし、そして、亦、信じもしなかつた

余り流暢にしゃべられると、いささか私の方で合いの手を入れて「一寸待つてよ」「すみません、もう一度……」と何回も何回も同じ事を開き

返す始末だった。

四方山の話の果てにレーンは私に言つてくれた。

「貴方は兵士としてアメリカと戦つたのか？」と、細い眼を無理に大きく見開き、私の顔を覗くように反問して來た。「いざれにしても日米戦は遺憾な事、悲しい事には違ひなかつた……」としんみり語つていた。私は当惑したが、「イエス、勿論戦つた。然し、私はソルジャーである前にドクターという立場上、間違つても敵に対して一発の弾丸も撃たなかつたし、一と太刀と雖も傷つけはしなかつた」と話したら「それでいいそれでいい」と何回もつぶやくように言つていた。話のついでに私は「私

の義兄は嘗て硫黄島の野戦病院長だった」と何気なく話したら、「オーランダフル。私の弟は海兵隊の士官として硫黄島で勇敢に戦つて、負傷して、アメリカ本国へ送られてから、戦傷がもとで死んでしまつたのだ」と語つて外人特有の大きなジェスチャーで、私の両肩を抱きすくめるようにして語り続けた。

そろそろ私も、自分の話に興奮してか次第に早口になつて來たレーンの英語に僻易して來たので、気分をそらす意味で「貴女の似顔を一枚書いてあげましょ」と言つたら、「是非そくを書いて渡したら、物凄く喜んでくれた。

充份なるお世辞とは知りつつも「非たのむ」との事、私がスケッチチブツクを開いたら、私が今度の旅行に際して、記念の為に各国人のサイン

を集めるべく常に腰に差して持ち歩いていた白扇に眼をつけて、是非その白扇に書いてくれと言つてきかない。

「デコボコしていく、これでは書きにくいから……」と言つたら、「何でもいい、貴方と私の想い出の為なのだから」と言われるままに、私は古代未聞の白扇のデコボコ面にマジックインクでクロッキー式に漫画にならない程度の彼女の似顔を、二三分で書いて渡したら、物凄く喜んでくれた。

充分なるお世辞とは知りつつも「非たのむ」との事、私がスケッチチブツクを開いたら、私が今度の旅行に際して、記念の為に各国人のサイン

とする」と言われて私も本当に嬉しかった。似顔書きには、いささかの自信と自惚れは持つていたが、私も仕方なく、「ノーサンキュー」を繰り返えすだけだった。

そういうする中に時がたち、私達のガーデンパーティーの用意が出来た旨の知らせがあつたので、「それじや失礼します。いずれ亦明朝にでも……」と起ち上つたら「私は今夜九時から、スペインから当地へ来ているオペラを見物に行って、十一時頃には帰るから、是非私の部屋に来るよう」……としつこいほどに言う。「お部屋の番号は?」と聞いてみたら、偶然私の左隣りの部屋である。

「イエス・シェア」こと返事して私の

は腕を差し伸べて彼女を起たせてやつた。三叉の杖にすがつて、トボトボと広い芝生の内庭を横切つて歩いてゆくレーンの後姿には思わず、日本語の大声で「オバアーチャーン」と呼びかけたいような親近感が漂つていた。

吾々の、其の夜のパーティーは、ふんだんに絶えまなく奏<sup>かな</sup>れる、心はずむ情熱的なメキシコ音楽のリズムによつていやが上にも浮き浮きとして剩え、芳醇なるティキーラとむせかえるよう、強烈なレモンの香りに、よう……」としつこいほどに言う。一デン・パーティーは今もつて忘れ難い楽しいものだった。

パーティー終了後、私は直ちに自室に帰つて、テキイーラによる顔の干照りを意識し乍らも、日記帳の整理をはじめた。同室の岡山先生は夜の散歩に出かけられて留守、さすが、夜の十一時過ぎともなれば、部屋の寒暖計も二十六度と実に気分爽快、私は夢中になつて、ベンを走らせていると、コツコツとドアをノックする音、「ドクターカナリ」将しくレーンの声に、私は反射的に答えた。——はい、只今、すぐお部屋に参ります、と。身仕度をととのえて——といつても素裸の上にポロシャツを一枚着込んだだけだが、早速私は彼女の部屋の客人となつた。

香ばしい苦味のきいたメキシココ

一ヒーを沸かして私にすすめてくれたが、私は「今頃コーヒーを飲んだら、眠れなくなるから切角だが飲みたくない」と丁寧に断つた。

「オーノー。それじゃこれがいい」と部屋の片隅に置いてあつたザックから一と擱かみの皮つきのままのピーナツを持って来て無難作に、テーブルの上にバラバラと音を立てて山積みしてくれた。

「よく来た。よく来た。私はワシントンから、持病の保養の為に此所へ来て三ヶ月になるが、スペイン語は余り上手でないので、英語で語り合いい、そして理解し合える対手が欲しくてたまらなかつたのだ」といつゝ。私は慌てて「メントセイナンセン

ス・ユーハブオールレディナウン。  
マイ・イングリッシュユイズ・ベリップ  
アー」と畠のたま「いいよいよ」とに角私の言つことを理解されて

くれればソレでいいんだよ……」とコツクリコツクリ自分で訳しながら自分でうなずいてくる。

私は黙つて合槌を打ちながら机上のピーナツを指先でペチンと割つてはボリボリ食べながら適当に返事をし続けた。彼女は熱心に話しあつた。私は二クソンが大嫌いだ。——何故なら、彼が大統領になつたが、ベトナムの戦争は終らない。彼は心からベトナム戦争についての話し合いの

け取つた手紙の一節を、彼女には失礼かも知れぬが、抜粋して御紹介しよう。

前略 The election in the U. S. are

over and to a great disappointment to me that Nixon won. I voted for Mr. Humphrey as he is more liberal than

Nixon, and he had an excellent record us public office. He is unfortunate in being too closely associated disastrous in VIETNAM.

(二クソンよりも、むへど、自由思想を持つハンフリーに私は一票を投じたが、彼は可愛想に負けた。彼は不運なのだ。二クソンじや最早やらのタカ派なのだ)——ふやえきめつけていた。

因みに私が帰国直後に彼女から受

だ) という意味。この手紙は勿論だが、彼女との其の夜の会話のすべてを考えてみて、こんな具合に鬪病生活を続いている一介の老婆ですらが選挙を通して、自分の国家のあり方を真剣に考え、そして理論整然と外人の私にすら淳々と説明するだけの見識を備えているアメリカ庶民の政治感覚が羨やましく思えた事だった。最初テーブルに置かれた、日本のピーナツの倍ぐらいもあるかと思われる程の大粒のおいしい豆の大部分を食べてしまうと、レーンは黙つて立ち上つて又持つて来て呉れるので、遂にはレーンは不自由な肢を運んでザック)とピーナツをテーブルの上に置いてくれた。

「日本では、この豆を「あとひきマメ」と言いましてね……」と弁解とが、何としても「アトヒキマメ」という英語の表現が出来ないので、仕方なしに最後の一つを食べ終つた時に私は黙つて立ち上つて「おそらくまでも、本当に、御馳走様でした。おやすみなさい」とだけしか言えなかつた。

私の腕時計は午前一時を少々廻つていた。ピーナツ——レーン——そして私と——まるで落語の三題噸のよう、私にとつてはクエルナバカのアフリカのチューリップの花の鮮烈な紅色と共に忘れ難い彼女なのである。

### 第三章 ヘル・ハインリッヒ・デッター

ヘル・ヨーハン・アイゼンゲッテル赤道に近いアカブルコの暑さは格別だつた。戸外の寒暖計が四十三度を示しているのを見た時にはギョツ

とした。さすが世界一を自称する保養地だけに、私の部屋の真下から続いている真白い砂浜からもかげろうが燃えて、その向うに白亜のケネディー一家の別荘や、淡いブルーの壁を持つたジョン・ウェインの別荘などが望見出来る。

十日余にわたるメキシコ滞在は一応のケリをつけて、明日はいよいよロスへ向けて出発というのでメキシコに於ける「最後の晚餐」会を楽し

く済ませて、自室へ帰つたが、まだ八時に一寸前——太陽の国メキシコのキヤツチフレーズに偽りなし、自室のロビーから何時沈むとも知れず水平線上に停止し放しじゃないかと思われるような、まだるっこい真赤な夕陽を避けて、私はその暑さにうだり乍も、その美しさに見とれてロビーのマーモンドの木蔭のベンチに猿又一本のジャパニーズスタイルでのんびりと海滨に群れる浴客の賑わいを見ていた。連日の疲れの為か、何時とはなしに私はウトウトとしたらしい。

丁度私の部屋の角に戸外シャワーがあり、海で泳いで来た連中は必ずそのシャワーを浴びてからないとホテルのプールに入れないので、色んな人種の黒いのや白いのや黄いろいのや、入りまじつてキヤー言いながら、冷めたいシャワーを浴びてさわいでいる。ところが、そのシャワーには、押しボタンが水道管の立ち上りの根元の方にあって仲々分かりにくいらしく、来る者すべて一応はシャワーの下に立つのが、皆困っている。それでも、どうにかこうにか結構、ボタンを見つけてはシャワーを浴びていく様子だった。

何分ぐらい私は素裸で仮眠をむさぼっていたか知れぬが、いくらか肌寒い思いに、ハツとして吾に返つた。先き程までは何時沈むとも思われなかつた真赤な太陽が殆んど紫色の残光に変つて、所謂薄暮の夕景に驚いた。その時である。

二人の屈強な白人の青年が何か愉快そうな笑い声を発しながら砂だけの体でシャワーの下に立つた。ところが、あたりがうす暗くなつて来た為か、シャワーのボタンが分からずりやいいんだい?」と大声で話しあつては、シャワーを浴びていく様子だった。

聞くともなしに聞いていたら、まさしく彼等の会話はドイツ語である。私は余計なおせつかいかとも思ったが——「ビツテードソツケン・ジー」(それを押せよ!)と大声で言つてやつたら「ダンケ!」と二人でキヤ

ツキヤツ言いながらシャワーを浴び

おえて、私のロビーの前を髪の水気

ぞぶりふり通りかかった。その中の

背の高いチヨビひげを生やした青年

がいきなりドイツ語で「ケンネンジ

ー・ドイツチュ・シュプレヒエン?」

(ドイツ語がしゃべれるのですか?)

と立ち止まりながら話しかけて来た。

「ヤー・アーバー・エスイスト・エト

バス・クライン」(はい、だけどホン

のちよつぴりですよ!)と私はいさ

さか慌てておうむ返えしに返事をし

た。

お互いにメキシコでは外国人同志

であるという気安さから、私が日本

の医者であるということ、彼等がハ

ンブルグ医科大学の学生であること

もあつさりと理解し合つた。

其所から話が弾んだ——と言いた

いところだが、いささか英語からド

イツ語への俄かに切りかえるのが

仲々困難なので、まるつきり、英語

とドイツ語の単語を五目飯のように

ゴチャゴチャと並べて会話を続けた

次第。

「俺はフエットライビツヒだから暑

くて暑くてやり切れぬ」と言つたら

「ドクター、十五。へソ出せば僕等の

部屋でクーラーに当らせてやるよ」

と言う。

成る程そう言われて気が付いてみ

ると、私の部屋以外の総べての部屋

はピツタリと窓を閉めて、盛大なク

ーラーエンジンの音がしている。岡

山先生に「どうして僕等の部屋だけ

クーラーが無いのですかね?」とい

うわけでまるつきり英語が駄目、ス

ペイン語オソリーなので、身ぶり手

ぶりで早くクーラーを持って来いと

言うことを通じさせた。

結局はこの部屋のだけは目下修理

中なので、扇風器だけで我慢してくれ

といふことを言つてゐるらしい。

人一倍暑がりやの私が、とんだ貧乏

クジを引いたものだと諦めた。

仕方がないので、彼等に誘われる

ままに私のひとつおいた右隣りの彼

等の部屋に参上した。

彼等の部屋に行つて先ず驚かされたのは、私をもてなすために、カウ

ンターに電話してビールを持って来

い、と命じているのだが、それがスペイン語でペラペラやつているのに恐れ入つた。電話を切ると、いきなり、私にドイツ語で話しかけて来る。こちらのドイツ語がそろそろあやしくなつて来ると、今度は英語で語かけて来る。ボヘミアセルベツサー（ビール）を飲みながら語は弾んだ。

彼等はハンブルグ医大の三年生だというが、既に日本で心臓移植手術に成功したことを知悉しており、日本この医者を以つて任ずる私ですからその術式の評価を知らないのに、彼等は実に良く知つていた。却つて私はドイツの医学生に日本の心臓術式を、計らずもメキシコのホテルで御

教示を賜つた次第、誠に汗顏の想いだつたが、その反面ドイツ医学の底の深さを泌み泌みと思わされた次第である。

私の方からは、私の徒弟がハンブルグ医大の耳鼻科で七年間も講師をして先年帰国した事や、そして、又彼等からは、目下ハンブルグに留学中の二人の日本人留学生が実に優秀である事や——話はソレからソレへと仲々にして進まなかつた。最後に、

恐らくはあのドイツの敗戦の辛さを知らないだらう筈の若者には一寸と可愛想な質問だとは、思つたが「体君達はヒットラーをどう思うか?」と聞いてみた。この話になつた途端、

現在の彼等にとつては、医学の勉強に全力を尽すことが祖国ドイツを復興させる事に通じてゐるのだ、と強調しているのである。学生時代怠け通しだつた私にとつては、実に彼等はよくも勉強しているなあという

まくし立てるのには閉口した。

然し彼等はキッパリと断言した。

「ヒットラー——ソレはゲルマンの史上に残る人物である事に間違いはない。彼のメトード（方法）が間違つていたのであって、だが然しど

イツ国家のユーバーラース・ドイツチエランド（世界に冠たるドイツの精神）だけは受けついで、吾々若者すべては、祖国の為に全力をふり絞つてゐるのである」

のが実態だった。それにつけても、

朝方読んだ英字新聞に載っていた日

本の「新宿事件」のスチュードントパワーの全学連暴動の記事を憶い合わせて、何とはなしにゲルマン民族と大和民族の底に流れる魂の動きの差に私は慄然とする想いだった。

四年後にミュンヘンでキット再会

しましようと固く握手して別れたのは、午前二時に近かつた。英語・スペイン語を巧みに使い分けて、レジヤーと勉強を兼ねてメキシコまで旅行に来ているドイツの医学生に、心臓手術の事を教えて貰つたり「俺達は世界一の若者だよ！」どうそぶかれたり心中私はおだやかならぬものを感ぜざるを得なかつた。

四年後に、ミュンヘンで彼等に会つた時に私は相も変らぬ日本のカン

トリードクターであるに反して、きっと彼等は今日の彼等よりもっと成長した素晴らしい医学者になつてゐんじやないかな、などと思つと、何とはなしにジットしていられない氣持だつた。

うす茶色のコーマン式のチョビヒゲを生やしたゴツイ顔のハインリッヒと童顔のシルバーグレーの頭髪と鋭い鼻柱を持つたヨーハンの顔が一何時までも何時までも私の眼の前にダブリ合つて、私にとつては矢張り忘れ難かつた。

## 思い出のメキシコ

堺 やす子

「メキシコは如何でした。ご無事にお帰りになれて良かつたですね」

狭い町の事とて、会う人毎に挨拶されます。それも道理、オリンピック三日目の男子バレーボールの時に、日本が快勝した嬉しさの余り観覧席で立上つて日章旗を振つてゐる主人と私がテレビに映されたのでした。おやとばかり、お友達も家の者も親戚中へ電話するやらされるやらで大騒ぎをしたらしいのです。私もこの宇宙時代に早速にも宇宙中継の電波にのりました事が嬉しくて「メキシコ人はとても朗らかで、其の上気候は年中良いし、空は澄んで青葉が美しく花の色があざやかで」と、よい気持ちで土産話を語つて居ります。本当に誇張なしに言つても私の今

迄の旅行の中で此度の旅行程楽しく珍らしく印象深かつたものはありません。何にもまして旅行会の方々の行届いて親切なお世話と団員皆皆様の温い友情と親和の賜ものと深く感謝申上げて居ります。私共のようなお勞わり下され、其の度毎に頭の下がる思いでした。バスに乗る時は最後から乗車する私共のために、いつも最前列の特等席を明けてお待ち下さるのでした。毎度の事で申訳なく私がお札を申し上げると、後の方の誰方がが、バスが衝突した時には真先きに壇さんがやられますよ、と言つて、私の心を軽くさせて下さるのでした。こうした皆々様のおやさしいお気持に対して御礼の言葉もなくお報いするすべもありません。せめてこれからはすべての人々に此の身に出来る限りの親切を尽くしてと

心に誓つた次第です。本当に有難うございました。この誌上をおかりして主人共々厚く御礼を申し上げます。

何となく決死の覚悟で乗つた飛行機も乗つて見れば少しの不安も覚えでしょうに、終始何かとおやさしくお勞わり下され、其の度毎に頭の下がる思いでした。バスに乗る時は最後から乗車する私共のために、いつも最前列の特等席を明けてお待ち下さるのでした。バスに乗る時は最も

青黄紫とあらゆる色に光り輝やく宝石を隙間もなしにちらばめたような豪華で目の醒めるような景観に、思わず全員拍手喝采をしてしまいました。何と心憎いまでに計算された演出よと、メキシコの第一印象は百点満点と評価したのでした。次いで、空港へ降り立つた時、意外にもお寒いのと、肌色の違う巨人達にもみ苦れぬもので、世紀の祭典の言葉がビックリと思つた事でした。重量あげで三宅兄弟の優勝は夕方だったので

バッケを抱え込んで震えていた事は忘れられません。

四年前から積立金をして期待していたオリンピック開会式は予想以上に素晴らしいものでした。世界中の若人がオリンピックを目指して鍛えに鍛えた技を競うために、こんなにも沢山にメキシコへ集つたのかと何とも言えぬ頗もしさと心強い充実感を味つたのでした。

競技場の素晴らしいさもさる事ながら、堂々たる入場式の力強さ。女子聖火ランナーの聖火台点火の感激。空中に羽ばたく鳩の大群。空一杯に舞上る赤青黄の風せん。もうだれもかれも夢中になつて手を叩たき足を踏みならし、場内満員の八万の観衆は完全に一つに溶け合つた光景でした。あの感激はとても忘れられぬもので、世紀の祭典の言葉がビックリと思つた事でした。重量あげで三宅兄弟の優勝は夕方だったので

私共は引籠つて出掛けなかつたため、此の目で見なかつた事は今も残念に思つて居ります。

レホルマ通りの美しさはメキシコを語る時に第一に取上げる事にして居ります。悪魔が走つてゐるとも思える日本の道路しか知らない私は公園かしらと思つた程でした。綺麗に刈り揃えられた緑の芝生をはさんで三車線の往復、其の両側に又も芝生と木立ちと歩道があり、そしてそこにここにゆつたりとした噴水や或は大き見事な彫刻が立ち、それらを巻く色とりどりの花々。その道路をスムースに車が走つていましたが、其の車が割合立派なものが少なく、ポンコツらしいのが目立つたのは何を物語るかと不思議でした。ダントサンの店の前を通り過ぎましたが、他人でないような気持ちになりました。テイティフカンのピラミッドを見

学しました。ピラミッドは太陽の神殿、月の神殿の二つあり、紀元前八百年に造られたもの。今から二千年程前に比の土地に生活して居た人々の有様が色々と想像されて去り難い思いでした。

足弱の私共は頂上へ登らないで皆様のお戻りを待つて居ると、麓のトイレの前の大きな木を取巻く円い花壇一面に紫のスミレが咲いて居ました。そのスミレにホースの水をそそいでいるトイレの番人に手真似でスマレの名を尋ねますと、「ニレポナール」と答えて、三、四本摘んで私の胸に挿してくれました。記念の彼の写真と押花にした「ニレポナール」は今もあざやかにあの日を思い出させてくれます。

明方近い頃、意外にも「コケコッコー」とのどかな声が耳に飛込んできました。近頃は私共のような田舎でさえ雄鶏は飼いませんので、久し振りに聞いたのでした。この立派な部屋とコケコッコーが何とも結び付かず、とん智のきく人なら何とオチをつけけるかしらなど考えたのでした。

心を籠めてサービスしてくれたコックさんのために、各自の名前を寄せ書した日の丸の旗を贈りました。今もコバートのプールをバツクにして楽しく食事をする客の頭上にはためいているかしらとなつかしくなります。客室の頭上には重々しいシャンデリヤが下がり、足元には立派な毛皮が敷かれ、見事な彫刻に飾られたベットに横たわつて居ると、突然物凄い音。ハツとして聞き耳をたてている中に雷鳴と気が付いた、さてもメキシコの雷は短氣者よとおかしくなりました。

クエルナバカの一三ホテルも忘れられないものの一つで、ホノボノとした思出を与えてくれます。あの日宿泊した私達十人のために温かく

記念にと頂いた二個の小さなかめと紙紐でつくつた馬は今日も茶の間の飾棚に並んで、私にほほえみかけて居ります。

クエルナバカからタスコへ向うバスの窓から、あれがスペイン風を今も残している「タスコ」と言われて眺めた風景は何故か私に始めて異国に来たとの実感が湧いたのでした。昔読んだ外国小説の一場面が頭に浮かんだのです。石畳の坂道。とがつた屋根の寺院。レンガの埠等味わい深いものが沢山ありました。タスコの高い丘の上のレストランでの昼食も忘れ難いものです。メキシコに在住して居られる荒井様御夫婦が私達のために案内をして下され、其の上沢山におにぎりを御持参下され御馳走になつた事でした。そのおいしかった事、御飯に飢えていた私には山海の珍味にもまさるようと思われたのでした。日本から取寄せられた味

噌漬や梅干や海苔等は遠い異国では得難い貴重品でありましたように、深く感謝申上げたのでした。

クエルナバカからアカプルコへ向う途中の見渡す限りの大平原も珍らしかつたです。地味のよいところは広々と耕やされ、米やとうもろこし、さとうきび、綿等が作られていました。又、大きなサボテンが点々と立ち並んでいました。インデオの子供らしいのがとかけを両手にぶら下げて買つてくれとバスの前に立ちます。バスを降りてそのとかけを借りて記念撮影をしました。

アカプルコは太平洋岸の海水浴場でケネディの別荘をはじめ有名な俳優の別荘等海岸近くに建ち並んで、世界大戦以来の戦死者二万人以上が葬られているそうです。見渡す限り広い芝生に整然と墓石が埋め込まれていました。殊にベトナム戦死者らしい墓の前には生々とした綺麗な花が供えられていきました。涙にくれながらこの花を供えたであろう遺族の

とを若しやと思つてシャツターを切つた私のカラー・カメラは、意外にもうまく其の絶景をとらえてくれました。又、遊覧船内で海賊を装った写真屋の撮つた写真は、マア何と商魂たくましい事よと眉をひそめ乍ら買わされたものの、今となつては良い思い出となり、いざれも旅行記念アルバムの一頁を飾つて居ります。ロサンゼルスへ飛んでハリウッドでのユニバース撮影所見学は聞き手が若い人の時の土産話です。皆羨しそうに聞いてくれます。

ハワイ観光で一番印象に深かつたのはアーリントン基地でした。第一世界大戦以来の戦死者二万人以上が葬られているそうです。見渡す限り広い芝生に整然と墓石が埋め込まれていました。殊にベトナム戦死者ら

人々の姿も想像されて、胸ふさがる  
思いでした。戦争は絶対に厭やです  
ね。

有名なワイキキ海岸では水泳や水  
上スキーを楽しむ人や砂浜にたわむ  
れるアベック等が目立ちました。又、  
原色で着飾り賑やかな音楽にのって  
踊りまくるフラダンスも珍らしく、  
それを見るための観覧席にズラツと  
腰掛けた世界各国人のあざやかな衣  
装の色とりどり等、此の世の歡樂の  
縮図を見る思ひがしました。比の人  
達とは正反対の生活をしている人も  
ある事を考えると、ハワイは私には  
何となく馴じめぬ思ひを抱かせまし  
た。

十五日の旅程を恙なく終えて羽田  
空港に降り立つた私は未だ夢心地で  
した。この年齢でよくぞ十五日もか  
けて地球のあちら側まで見物して、  
無事に帰れた事よと嬉し涙が出たの  
でした。

# 美術部部員が個展を開催

白矢 勝一

ずかしながら一曲披露させていただきました。

昨年末に当クラブ美術部の部員でいらっしゃる先生方の個展が各所で開催されました。

平成27年11月21日（土）から27日（金）に都内練馬区にあるギャラリー古藤にて、『第30回 野口眞利

油絵展』が開催されました。会期中にはピアノの生演奏や「生活筋トレ実践指導」などのイベントも催され、バラエティに富んだ素敵な個展になりました。私もイベントに参加させ

ました。私もイベントに参加させていただきましたが、ピアノの生演奏に合わせてシャンソンが歌われたり、野口先生も歌声を披露してくださいました。私もその舞台に招かれ、恥

を契機に私も出来るのではないかと、同じ所で個展を開催。それから銀座セントラル・光が丘美術館・江古田のギャラリー古藤と油絵の発表を行つて参りました。私は12回展の頃だつたか、気落ちして毎年展覧会を行はず、隔年にしようとも思いましたが、NHKでも有名な着物デザイナー木村孝さんの激励もあり、その時から30回展は、私にとつてひとつの大目標となつておりました。

いよいよ30回展であり、私には感無量であるが、いろいろお世話頂いている皆様には、厚くお礼申し上げます。

終わりなき戦い

絵を描くことは“終わりなき戦い”である。完成のつもりが、サインも終わつたり、写真を撮つたりしてからも筆を加えなくなつてしまつ。この機会に最近描きながらいろいろ

ひとつの目標 30回展

「ご挨拶

☆ ☆ ☆

私の父・千束は103歳で亡くなりましたが、江古田ギャラリー「オーラス」で初めて個展を開きました。これ

意識している美の構成をまとめてみたい。

①色合いとしては、オレンジ、黄赤などの情熱色に加えて補色表現。

②構図には太いヤグラを組み立てる。  
大田は線や細目の西落と線を主とする。

③モチーフとして、酒好きのワイン

ルート、音楽や人の情緒表現、巨匠ゆかりの異、キリスト教の歴史や文

化などに求めている。

④また、目に見えないものとして大氣・空氣や風の流れ、遠近、表と裏

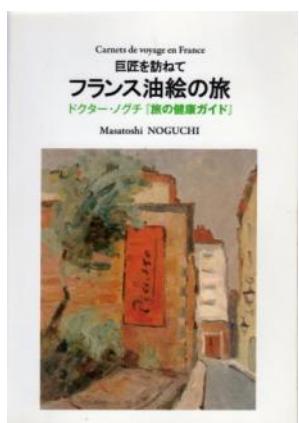
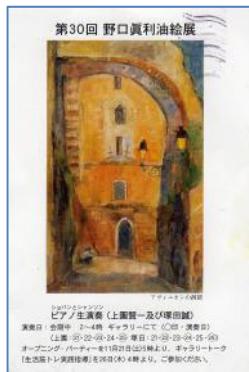
などを取り入れる。

今は、意識のうちであるが、これから自分が無意識にやれる事を、これから自分

標にしたい。

絵を描くエネルギーと生活筋トレ

一般的に、集中力は1時間半が限度といわれています。疲れている時、いくら描いても無駄。休憩も必要。でも、私の主張する生活筋トレで筋

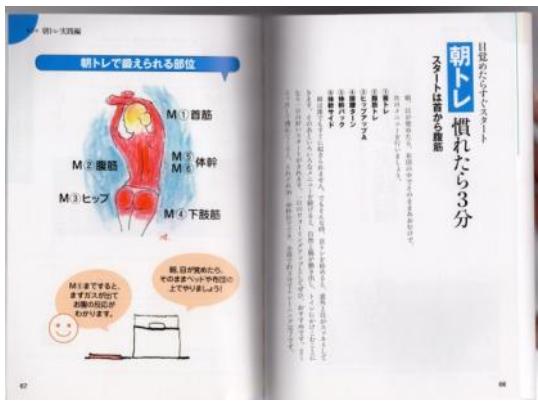


肉をつくると、エネルギーが湧いてきます。皆さんも是非、活用して頂きたい。

絵の一族

私の母の兄・寺本忠雄は挿絵、また従軍画家でした。私の父・千束も103歳まで描いていたし、父の弟・新一も、私の亡くなつた姉・和子、一水会で活躍中の妹・春枝そして慶子もみんな頑張つてゐる。この遺伝子には、私も感謝している次第です。

2015.11.21 豐口 運彩



野口眞利先生は今年九月一日(火)から七日(水)に新宿の京王百貨店京王ギヤラリーにて個展を開催予定との事。機関誌でも是非またご紹介させていただきたいので詳細を楽しみにしています。

平成27年11月23日(月・祝)から28日(土)には東京銀座の銀座文藝春秋画廊B1F『ザ・セラー』にて白幡雄一先生と奥様の祐子様の『一人展』が開催されました。

こちらのお二人も毎年医家美術展に素敵な作品を展出されていて、今回個展にもたくさんのお二人の油彩画とパステル画の作品が展示されました。個展は二回目だそうで、ご夫婦で共通の趣味を持ち、個展を開催されているとのことで、とても

会場となつた『ザ・セラ』はとても素敵な画廊で、カウンターがあり、ワインやソフトドリンクなどが用意しており、そこで奥様の白幡裕子氏の手料理も振舞われていました。おいしい料理とお酒とともに白幡雄一先生とは絵画の話で二時間以上も語り合い、時がたつのも忘れて色々なお話をさせていただきました。

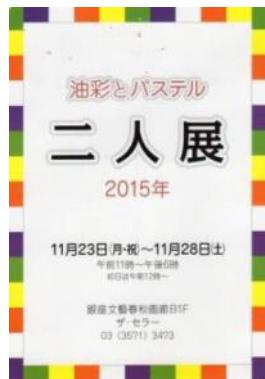
裸婦画を主に描かれている白幡雄一先生ですが、裸婦画は背景が大変難しく、先生も毎回悩まれているとのことでした。が、展示してある作品を見ると、どれも裸婦を引き立てる様な素敵な背景が描かれていてとても敬服しました。中でも「豹」が背景に描かれている作品があつたのですが、それは素敵な作品でした。

奥様の白幡裕子氏の作品は、パステル画が主でとてもやさしいタッチと

色合いの作品で見ていると心穏やかな気持ちにさせてくれる作品です。過去に医家美術展に出演された作品も数点飾っていたので、いくつか掲載させて戴きます。



白幡雄一先生（医家美術展出演作品）



11月23日

～11月28日

土

午前11時～午後6時

休日は午後5時

銀座文藝春秋画廊B1F

ザ・セラー

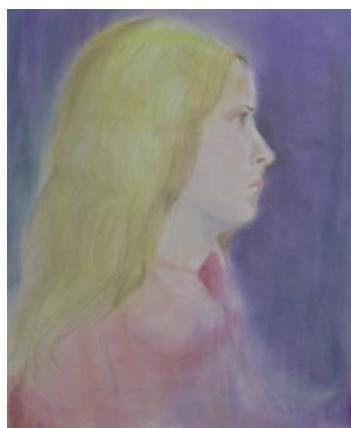
03 (3671) 3473



白幡裕子氏（医家美術展出演作品）



今年の秋にもまた医家美術展を開催予定なので、先生方の新たな作品が見られるのが楽しみです。素晴らしい作品に囲まれ素敵な時間を過ごさせていただいた先生方に深謝の想いです。ぜひ皆様も足をお運びください。



# 透視像



敗因

太田 怜

昨年のスポーツ界では意外なことが二つあった。一つはラグビーで日本が南アにかつたことである。にもかかわらずスコットランドに大敗して、予選で三勝一敗であったのに本戦に進めなかつたのは更に意外であつた。

二つ目は野球の侍日本が優勝できなかつたことである。予選リーグを全勝で通過し、その時勝つていった韓国に本戦のトーナメントに負けるとは。予選では韓国に5-0で勝つていた。しかも本戦ではその韓国を七回まで一安打無失点に押さえこみ日

本は3-0とリードしていたのである。その時点で日本が韓国に負けるとは誰も予想しなかつたであろう。日本が負けたという口惜しさより99%勝つべきものが負けたという意外性に何とも理不尽なものを感じたのであつた。

さて、敗因は。誰しも大谷を続投させなかつたことだと云うであろう。つまりこの時点で日本は勝つたと思つたのである。大谷の肩を休ませるためだという人もいた。そして継投の則本が八回を零封したことで勝ちは益々確実となつた。九回始めに則本を交代させる機運を失つたのである。さらに六、七回のチャンスで日本が加点できなかつたこともあとになつてみれば大きな敗因と云わざるを得ない。

会員の皆様、あけましておめでとうございます。発行が遅くなつてしまい御迷惑をおかけいたしました。今年もどうぞ日本医家芸術クラブをよろしくお願ひいたします。(E.S)

## 編集後記



ることはよくあることだ。つまり勝利を得るために弱つた相手に最後のトドメを刺さなければならない。平家は頼朝を見逃したために滅亡した。戦国時代敵城主を討ち取つた後はその一族を草の根を分けても皆殺しにするなどこの上なく残酷なことだと思っていたがこれこそが当時の正しい戦略だったのだろう。つまり侍日本の敗因は勝勢に甘んじてトドメを刺さなかつた、いや刺せなかつたことのようである。